

SPRING

10

大手前自治会

まえがき

スプリングは10号です。内容としては少しぐらいは向上したと思います。現にこれを手にした時、今までとは変っているなあと感じられたと思います。そう感じるほど注意をさっているなら、せっかくのことですので本文まで注意をはらって下さい。目をおしすぎるほど読んで、おもしろいならおもしろいと、マンネリならマンネリだと、ようやると思うならようやると、小さい声でもよろしいから言ってみて下さい。一人がいったのをきいて一人がいう。それを聞いてまた一人がいう。そして、それをスプリングは聞くでしょう。その時、私達はスプリングを向上させたとき大きな声でいうのです。

目次

一、テーマー 自治会・大手前	1
その一 自治会本部役員を務めて	4
前期自治会会長 東善子	
後期自治会会長 平山篤志	
前期二年学年代表 上山幸治	
後期運動部長 上野雅夫	
その二 代表会議出席表	9
その三 ある日の自治会	10
その四 自治会大手前に対して思う	10
二、クラス紹介	18
三、クラブ紹介	34
その一 運動系クラブ一覧表	34
その二 運動系クラブの体験談	34
その三 文化系クラブ	35
四十号発行記念	39
スプリングってなあに	48

五	特集	大手前にストロップがやってきた	51
六	行事	紹介	53
七	先生	紹介	57
八	意	見	59
		その一 私と倫社	佐藤雅司
		その二 自治への意識	佐伯隆三
		その三 卒業式について	森口芳樹
九	文	芸	55
		その一 人生の或る真理	馬場聰吉
		その二 溶化	副島正純
		自己回帰へ	
		その三 スキーは楽し	浅野健二郎
一〇	編	後記	63

THEME

自治会

自治会あれこれ

東 善 子

私は、自治会なるものの理想を打ち建て、達成せんとばかりふるいたった訳でもなかった。いわば偶然から自治会と個人的生活とをかなり密接に結びつけることとなり、その赤はじだらけな経験から、感覚的に漠然と自治会をとらえているだけである。

自治会がその発足時において、すでに主体的な集団でなかったことから、現在の会員の無関心による不振を説かれることが往々にしてある。崩壊の一途をたどっているという感は免れないが、それは自治会の起源やそれ自体の機能・性格からのみ説かれ、単に会員への非難という形で向けられるものではないと思われる。実にその背景、現在の教育体制そのものに目を向けねばならないであろう。いうまでもなく自治会とは、教育体制に完全に組みこまれ、それにより、現在の自治会が根元的に規定されていると感じるからである。

現在の高校教育は、さらに次の段階へと進む大きな集団を、現代社会における一つの価値体系に基き実に合理的に作りあげようとしているようである。多くの生徒は、追いたてられるような不安にかられてか、また将来の安定を求めてか、過酷ともいえるカリキュラム

その競争へと自らを強いる。その段階において、社会の価値体系を疑い、また個人的に転倒した価値感をうちたてるものは、いつの世にもそうであつたように自ら所屬する『社会』の異邦人と化する。「長いものにまかれる」的な思考で割り切れたとしよう。そこにおける将来の安定とは何を意味するのか。ひとにぎりのインテリゲンチヤの支配による市民文化、その中で成長した我々がそのにない手となり、ますます複雑化し深刻な矛盾を秘めるであろう社会共同体を構成してゆくことなのか。雑ではあるが、このような背景のもとに現在の自治会があり、その問題がふくまれていて思われる。まず集団における主体性という問題であるが我々前期本部はクラスを最小単位として、少しづつ意識を高め討論の輪を広げてゆこうとした。というのはクラスにおいては少なくとも仲間意識なるものが存在すると考えたからであるが、私は今、そのことを疑問に思う。クラスこそ、最も非主体的な集合体ではないだろうか。その完全な保護と管理の中へ自治会が割り込もうと努力した（ホールルーム討論の設定化）にかかわらず、他の比較的主体的な集団（クラブ・サーク

あまい考えかも知れませんが、これから先の激しい生存競争にあつても、人を押しつけてまでのし上がつていつてほしくはありません。高校生活でつかんだものと、自分自身を大切に

ルなど）の自治会遊離を明確にさせ、ますますその虚無性を暴露する結果となつた。我々は今自治会の機構そのものを疑う必要にせまられているのである。次に、顧問制の問題がある。学校が教師と生徒という二つの異つた立場を持つ人間で形成されている以上、当然さけがたい問題に違いない。それは、中学校より高校、高校より大学と、生徒の自意識の高まりにつけ鼻につく問題となるであろう。

大学においては、管理者としての教師という立場に問いかけが行なわれているが、高校では、それに加えて保護者としての立場をかね持つため、より多元的、より困難な問題となつている。家庭における親で代表される保護者のように、現在、高校における親で代表される教師の立場は疑われ、また理性では決して割り切れないものをふくんで空転している。それは顧問制廃止というシステムの改善で片づくはずはない。社会が我々に保護者が必要とする限りそれに代わる教育法は存在しただすであろうから。むしろ、「教育者としての立場」を主体的に自らに問いかける教師と、批判的精神を持ち、伝承された学問をより発展させてゆける生

うつとしい学校、そして先生、そして友達と別れる先輩おめでとろ！

うらやましいな

徒という。緩漫といえども内的な変革が必要であるうむろん、人間のいいかげんさ、そのエゴイズムを考へるなら、やはり社会の常のように外的な制度の変革が必要なのだが。その過程の現段階においては、我々は一切の既成概念や習慣にとらわれることなく自己をみつめ、社会をみつめてゆこうとする姿勢を常に持つてその単なる受身的立場からの変革を目ざさねばならぬいだろう。

何ら明確な自治会建設論を打ち出すことはできなかつたが、形骸化し、さらに形骸すら刻々と風化されてゆく自治会の中で、言葉の通じない人々との対立、どうしてもこえられぬ、「学校」という普通名詞で表現されるものの壁、その中であがきつつも何の手ごたえもない自治会なるものに対峙した七ヶ月間は、私にとって貴重なものであつたとだけは断言することができ

る。

世界は、一秒たりとも変化のない時はない。
その一瞬の中にいる君の生命は、なんと小さなものか。しかしそれをぞんざいにするな、むだにするな。なぜなら、明日の世界のにない手だから。

送ル 三年 使 大学

大手前雨 軽塵 客舎青青柳色新

勸君更尽一杯酒 東出東大無故人

自治会誕生

平 山 篤 志

本来、自治会活動とは、自治会員と本部が一体となつて動くことを意味する。ところが現状はどうだ。本部が先を走り、会員はそれに盲従している感がある。つまり、一部の生徒が引っぱってゆく自治会なのだ。その原因は何か。それは、抽象的にはなるがやはり自治会会員の自覚の欠乏ということに尽きる。

その顕著な例は、代表会議の出席状況や本部と委員の意志疎通に認められる。では、自覚の欠乏とは何か。それは、意識がないこと、言葉をかえれば、何も考えないことを意味する。こう考えると、我々に自覚が欠乏しているのは、我々が本部のあやつり人形になりうるといふこと、さらにパスカル流に言うと、「我々は藁である。そして、藁でしかない。」となるのだ。果して、そんな状態でよいのか。これだけ、バカにされれば誰もが思うはずである。自治会をかえねばと。その通り、自治会を質的にかえることこそ急務なのだ。

心は永遠に残れども、残してならないこの体

通り過ぎてく昔が今が何故か身にしむ、冬の空

泣きはしないぜ男の意気地

さらば母校よ 若き日よ

徒という。緩漫といえども内的な変革が必要であるう
むろん、人間のいいかげんさ、そのエゴイズムを考
るなら、やはり社会の常のように外的な制度の変革が
必要なのだ。その過程の現段階においては、我々は
一切の既成概念や習慣にとらわれることなく自己を
つめ、社会をみつめてゆこうとする姿勢を常に持つて
その単なる受身的立場からの変革を目ざさねばなら
いだろう。

何ら明確な自治会建設論を打ち出すことはできな
ったが、形骸化し、さらに形骸すら刻々と風化され
ゆく自治会の中で、言葉の通じない人々との対立、ど
うしてもこえられぬ、「学校」という普通名詞で表現
されるものの壁、その中であがきつつも何の手ごたえ
もない自治会なるものに対峙した七ヶ月間は、私にと
って貴重なものであったとだけは断言することができ
る。

世界は、一秒たりとも変化のない時はない。
その一瞬の中にいる君の生命は、なんと小さなものか。しかし
それをそんざいにするな、むだにするな。なぜなら、明日の世
界のない手だから。

送ル 三年 使大学

大手前雨 軽塵 客舎青冑柳色新

勸君更尽一杯酒 東出東大無故人

自治会誕生

平山 篤 志

本来、自治会活動とは、自治会員と本部が一体とな
つて動くことを意味する。ところが現状はどうだ。本
部が先を走り、会員はそれに盲従している感がある。
つまり、一部の生徒が引っぱってゆく自治会なのだ。
その原因は何か。それは、抽象的にはなるがやはり自
治会会員の自覚の欠乏ということに尽きる。

その顕著な例は、代表会議の出席状況や本部と会員の
意志疎通に認められる。では、自覚の欠乏とは何か。
それは、意識がないこと、言葉をかえれば、何も考え
ないことを意味する。こう考えると、我々に自覚が欠
乏しているのは、我々が本部のあやつり人形になりう
るということ、さらにバスケル流に言うところ、「我々は
笨である。そして、笨でしかない。」となるのだ。
果して、そんな状態でよいのか。これだけ、バカにさ
れば誰もが思うはずである。自治会をかえねばと。
その通り、自治会を質的にかえることこそ急務なのだ。

心は永遠に残れども、残してならないこの体

通り過ぎてく昔が今が何故か身にしむ、冬の空

泣きはしないぜ男の意気地

さらば母校よ 若き日よ

では、次に自覚をもたない。あるいはもてない理由を考えよう。一つは、暇がないから自覚なんてもつのは真平という理由。今一つは自覚しても、自治には限界があるから断わるという理由。以上二つが上たる理由だ。まず、前者についての、私の意見を述べる。忙しいから云々といって自治会活動に参加しないのは、自分で自分の首をしめあげることになるのだ。なぜなら、自治会は、生徒が楽しい学校生活をおくれるための生徒の機関なのだから。それを理解すれば、自覚をもつことがどれだけ有利であるかわかるはずだ。そこで、わからないとすねても、一向に構わない。結局は自分が損をしているのだから。次に後者については、かなり説明がある。まず、大切な事は、我々が生徒、即ち教育を受ける立場にあるということだ。それは、どんなに理想的な社会機構になっても、法律や教育が社会機構のためにあるかぎり、我々は規制をうけねばならない。そこには、当然限界が生じる。しかし、自由であることと、かっつてなことができるということが一致しないように、制約をうけることと、すべてが弾圧されるということは一致しない。我々は、生来自由なのだから、主張が生徒の善意志に基づくなら、それ

大きく、大きく、大きくなつて、大きくなつて大阪城のようになる。

をまげてはいけない。一番重要なのは、それが可能なのだというのである。それに挑んでいけば、生徒の自由の範囲は徐々に拡大していく。生徒の自由の限界は自治の限界である。そして、そこに挑戦していくことによって、その限界は拡大する。それは、なるほど常に有限かもしれない。しかし、拡大していく可能性は無限ではないだろうか。

以上、二点の理由さえ理解してもらえれば、自覚をもつことができるはずである。そして、その段階に立ったとき、討論が当然活発になる。そこでは、従来のけんかの討論から、建設的討論への移行が見られる。そこに初めて従来とは異なったカラーをもつ自治会が誕生するのである。

学年代表までとめて

上山 幸治

今まで、幾度となく「自治会の低調さ」が訴えられてきた。新入生にとつても、別に耳新しくないはずである。中学校でもたぶん同じ事ではなからうか。そしてその度毎に自治会に主体性がないとか、自治会の行事が日常茶飯事すぎて、生徒の気をひかないだとか言わ

ももしきや 卒業さびしさまきりけり わが袖は人こそしらぬ
かわくまもなし、なほうらめしき先輩よ、われても末にあはむ
とぞ思ふ

新蟬丸

れてきた。何か自治会が執行部それ自体と考えがちだし、さらに生徒は芝居の観客のような気で自分達の気を引く下題でないと思わない。この受身の体制から脱け出さない限り、いくら自治会の例がどうか、いつてみても言葉の域だけで実を結ばないものである。と、いつて生徒が脱け出すのに必要なものは、はつきりいつて何もないはずだ。たとえ楽しい行事を多くしても、それだけで結びついた自治会が本物であるはずもないし、又、そういつた行事外の時は無状態に逆もどりするものである。

運動部

上野正雄

「運動部は体育運動に関する諸問題を受け持つ」

自治会会則第九章第九節・・・

校内大会実施に当って、クラブに及ぼす大きな疑問を感じないのでなかったが、学校生活を送るに当っての有意義な手段として校内大会は不可欠のもののように思える。又、運動部とクラスとの密接な繋がりがあったというような意見もあるが、実際のところ校内大会に関しては、クラスの意見云々といったようなこ

卒業！それは甘ずっぱいレモンの味がする。ちよつぱり悲しく、ほおがぬれる。でもほおが乾けば、そこにはか知れない世界がおまえを待ちかまえている。卵からかえつたばかりのおまえを。

とは全く滑稽なことのように思える。なぜなら運動部が、会員の望む数多くの大会を行うには、あまりにも時間が少なすぎ、行なわれる大会は過去の経験において、確立された的確な大会なのであるから・・・しかし、現実の活動として運動部は新しい試みを行うために数多くの努力をしてきた。オールスター戦実施、テニス講習会、多少の抵抗を感じないでもないが、トロフィーの設定、体育大会アンケート実施など、精一杯の抵抗をしたと思う。

~~~~~

編集子は、なにも代表会議や自治会のPMをすゝめるために、このページを作ったのではなく、欠席ばかりしている代表のつげ口でもない。とにかく代表会議のことに、すこしでも関心をもつてもらえたらけっこうです。

なお、民主的な代表会議では、遅刻、欠席のたぐいは、まったくありません。それからどっかの議会でこれと同じのを出されたのを編集子は、いまだに聞いたことがありません。

~~~~~

別れはいつもつらいけど

別れがこんなにうれしかったことはありません

代表会ぎ出席記録

年	1									2									3									
	組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5	19	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	24	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	31	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	×	×	×	○
6	4	○	○	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
6	17	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	×	×	○	○
6	18	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
6	20	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○	×	×	○	○	×
6	27	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○
7	2	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○
7	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	13	○	○	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○
9	2	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	×	×	○	×	○
9	3	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	4	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×
9	5	○	○	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	×	×	○	○	○
9	11	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○
9	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	×	○	○	×	○	○	○
9	19	(記録なし)																										
9	20	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	○	○	○	○
		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○
9	26	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
9	27	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
9	30	(記録なし)																										
(上前期・下後期)																												
10	14	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	4	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	○	×	×
11	5	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×
11	7	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
11	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
11	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	○
11	25	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
11	28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
12	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×
1	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○

ある日の代表会議

9月26日

質問 7条削除の時顧問はどのようになるのか。

本部 顧問について規定できない

質 参加団体で自由にできないのか

本 顧問という項目がなくなるのだ

質 ザンテイ案は7条も含めて原案と同じか

本 まだどのような形になるのか不明、常任委員会では未決定

は未決定

319 全校投票の意志が生徒間に強ければどうするか

のか

本 やりたいが常任委では審議しなす

216 代表会議で最終決定しないということはまだ有効か

有効か

本 代表会議で無効と認められていない以上有効

314 本案と暫定案と決定するということにおいてどう違うか

どう違うか

本 暫定案は今年だけのものであり決定方法も簡略化

されている

三年間(??)ごくろうさまでした。地球は望んでいます。地球の文化を創造し、これを伝えることが出来る人を。とにかくも、ごくろうさま。健康に気をつけて、がんばって下さい。ジャ さようなら。

215 もう一度全校投票をやりたい。破壊を阻止できないのか

本 本部では非暴力の立場をとるので暴力で出られた時は無力である。暴力行為はどんな場合においてもおこしたくない。全校投票は全体の意志をはかるといふ点でやりたい。

議長 この問題はクラスへもって帰る

自治会が発展するには

鴨 門 秀 高

ここに、スプリング8号9号がある。一読して想像されるのは、毎年「自治会を再建すべきだ。」「自治会とは何だろわ。」などの問題が提起されているのではないかということだ。これは、自治会が不活発であることを如実に証明している。自治会とは、文字通り「自らを治める」ためにおかれた組織である。自治会会則の目的の項に、①各種の問題について積極的に活動する。②各種のクラブ活動を通じ学校行事に参加する。③校長並びに教官と生徒の間の意志の疎通をは

目出タイナ 目出タイナ 赤はんターイテ
祝オウヨ 祝ト正月イツシヨニシタヨナ アー
目出タイナ 盗品マルセル

かる。と抽象的に書かれている。具体的には、どんな活動をするのだろうか。

二年間見てきた実状を、批評してみると、自治会本部としては、自治会祭、文化祭、体育祭、などの行事に追われ、自治会会員としては、これらの行事を通じて、一時的に自治会を意識するだけであって、毎年の課題である、両者間の意志疎通による自治会活動が行なわれていないと思う。そこで三つの場合にわけて考えてみた。

一、自治会は政治的組織

これゆえに、自治会の実行機関である、六部（庶務会計等）の行動性が少ないのが惜しまれる。4年度前期に構成した学年部会においても、ホーム・ルーム的な、自由な話し合いが、欠けているのではないだろうか。

また、自治会主催の校内スポーツ大会（バレーボール・ラグビー等）は、4年度後期に「クラスの閉結を増す」等の目的で、大いにPRし、一応の成功を収めたが、一年中、こういう行事があるわけではないから一時的でも、せつかく高まった自治意識が、さめてしまふ。だから、常に、話し合いの場をもったりして、

来年の三月には、大学へ入つて下さい。

僕と一緒にいろいろではありませんか。風流ではありません。大学です。一年ぐらい浪人しないためです。二浪が三浪にたび重なつて、この人もがんばりやあー

自治意識を継続させてはどうだろうか。

二、自治会は学校と生徒の間のパイプ

一定足数、一人足りない代表会議「作者不詳という川柳が示すように、代表会議は空転している。一三〇〇人からの代表者三〇人は、本部と会員のパイプ役なのだから、もっと積極的な行動をとるべきだ。「全校集会で議決しよう。」という代表会議無視の意見もでたことは残念である。

また自治会は、その権限をもって、自治会の一部であるクラブに協力を要請して、全校討論会をもつと開くべきだと思ふ。しかし、なんといっても自治会不活発の原因は、自治会会員の消極性だろう。

三、自治会は話し合いの場を提供する

けさも始業の鐘が鳴る。点呼、授業、昼食、授業、そして、ある者は校門へ、ある者はクラブへ、ある者は図書館へと急ぐ。クラスが分裂しているのだ。悩み多い思春期の数々の問題を、自分の殻にとじこめないで、多くの人につけられないだろうか。金曜日の口グ・ホーム・ルームを活用して、討論するのはどうだろう。各部の委員が「放課後〇〇について話そう」という。誰もが「残りたくない。」と思うだろうが、身近な事

文化祭で着地成功した、あの紙飛行機の如く安定感ある

毎日を送って下さい。

柄を議題にして、それを発展させ、クラスの親睦そして、自治会の発展が望めるだろう。

時々、自治会とは、学校においてのみ存在するので限界があると言われるが、どんな組織にも、その規則があると考えたら、どうだろう。ある組織に参加すれば、その規則を拒否することは許されない。もしそれが不服なら、組織の構成員にPRし、改正を認めさせる余地があるのだ。極言すれば、「悪法も法なり」という言葉がいうように、その規則が悪いと思うなら、改正しようと努力すべきである。だから、そこには限界がなく、自治会はどんどん発展するだろう。そのために、他人の言う事を理解しようと努め、活動に参加しようとする、一般会員の積極性が必要だと思ふ。

大手前 昔と今

太田 和幸

大阪城を拝んだ官庁街、環境は最高で通学の便利はこの恵まれた立地条件のもとにあつたのがれの観をいだかない方がむしろ不思議である。こんな立派な我が大手前の昔をひもとくと――

お母さまは、おつしやる。「三年間よくがんばつた」と、僕は、おつしやる。「よくも、まあ三年間で卒業できた」と。

西暦一八八六年に「大阪府女学校」として創立、当年とつて八十四の老年期をさまよっているのである。昭和二十三年にやっと新制高校男女共学となり、当時同級生と泣きの涙で別れを惜しんで半分が北野高校へ移った。何の気なしに隣りと話している男子諸君女子諸君、改めてその重大さを知ってみる機会が必要である。名門北野高校との交流による努力の結果、成績は上昇し、北野・天王寺と肩を並べる、いやはるかに上まわつて今日に及んだのである。

ホームルームは交流後始まり、いにしへ人には主旨がわからず、歌を奏したりする――

「のど自慢大会」と間違えられたこともあつたそう。今と比べて笑っているかもしれない、がマンネリ化して来た現在のホームルームをその本質とみなすことは何らかの疑問である。我々は余りにも無関心でいすぎ。個人主義的、情性のみ参加しているにすぎない。後ろでノートばかり開くのがすべてではない。／＼

ま、このようにして校舎が建設敷地が拡大され色々変革があつた。我が大手前高校の伝統には多くの人々の努力の賜物があり、古い校舎のほんの一角にも、過去の手形、血と汗と涙の結晶が残っている。ところで我々の使命だが、その伝統を汚すことなく、新しい自分自身であることにある。

狭き門より入れ。

自治会々員へ

野 端 哲 朗

たしか、後期本部役員の認証式のときの新会長のあいさつの一文に「われわれにとって不足しているのは、すい眠と対話である。」というのがあったような気がする。本当にわれわれには対話が不足している。生徒総会においてもクラス討議においても、真に対話している様子にはお目にかかれぬ。ただひたすらに沈黙を守っている「Keep silent」組、討議には全く関係のないことをしゃべっている別天地組、討論はしているが、自分の言いたいことだけをいって、それに対する意見には耳を貸さない自己本位組、もっとひどいものになると、人が意見を言っているそばからヤジるプロ野球観戦組、これらいずれの型をとってみても真の対話にはほど遠いもので、本来なら雑談、あるいはケンカと称すべきものである。

だいたい、日本人には対話が少ない。その日本の中でも都市部には対話があるようで、意外と少ないものである。朝、学校に来るとき電車、バス等の車中で、

苦しみから、のがれてはいけない。私たちの年代に経験する苦しみは大きな宝となる。

人生の苦難をのりこえて、どんな時にも明るいはほえみを消さない人になつて下さい。

全く未知の人と話をすることが果してあるだろうか。もちろん、全く知らない人とニコニコして話せというのではない。もし、そんなことをすれば、学校ではなく、何とかいう病院へ連れていかれる。バスなどが急停車した時、そのひょうしで前にいる人にのしかかっでしまうことがある。そんな時、すぐ「失礼しました」などということばが口から出るだろうか。たいていは「へたな運転だなあ。」なんて顔をして、気まずい思いをしながら学校へ来るのではないだろうか。そんなちよつとした事が対話の精神を作る。世界でも、もっとも対話のない地域に生まれたわれわれであるが、相手の意見を尊重し、自分の意見をきかせるのではなく、きいてもらう、そんな謙虚な気持ちで対話をすれば、自然、自治会本来の目的であるところの会員全員のことを考える本当の自治ができると信じている。

喫茶店にはいつて金が無いのに気がついたら

「大手前高校です」と言いなさい。

女の子と知り合ったら

「大手前高校です。」と言つてはなりません

学校に入ったその日から、教師のどれいになりました。

右と言われりや右向いてとても幸せ

ニヤロメ

自治会について思う

柳原 真一郎

自治会について書くはむつかしい。なぜなら、現在自治会は発展の可能性がきわめて乏しくなっているからである。現状を見ると生徒の信頼・関心はまるでない。これが不活発の原因の一つであろうか、その生徒をリードすべき常任委員会、代表会議に指導性が欠けていることはもっと大きな原因であろう。

(念のため、ぼくは常任委員会と代表会議の関係を互いに協力して自治会を活動さすものと考えている。) 常任委員会の新たに予餞会をやるうとする意欲は認められる。しかしぼくはこの活動の意義はある程度認めても全面的に賛成はできない。代表会議に関しては、もっと絶望的である。二年生代表は、意外にまとまりを持ち活発ではあるが、代表会議全体をみればどうもまるで有効な働きをしているようには見えない。

この不満の最大の点は、一つには先に述べた指導制が欠けていることである。生徒全体がある目的に向かつて進むことが自活動の重大な要素であるが、全体は

大学へ行かれても社会に出られても、広く社会を見つめ

責任ある行動をとるよう心がけてください。

たやすくは動かない。生徒個人の活動では自治活動にはならない。昨年、顧問制、文部省見解という突にちもしろい城が現われたとき、それに向って火エンピンを投げたことがあったが、そのもりあがりは、ついに自治活動にはならなかった。リーダーはこれを動かす力とやらねばならない。ところが現在のリーダーは、生徒に対し強烈なアピールも、プロパガンダもしない。これでは生徒は動かない。

しかし現在の常任委員会、代表会議はそんなことをしようと思っても容易にできない状態にある。それははっきりとした目的を持っていないことである。前に予餞会について全面的には賛成できないと書いた。この理由はここにある。つまり今、常任委員会はいろいろな仕事をしているが、そのことに一貫した意志が感じられない。というより自治会活動の本質がはつきりとかかめていないのである。この自活会活動の本質をつかんで後始めて、活発な行動が開始されると思う。

それでは、どのようにしてこの本質をつかむか。これは実に困難な問題であるが、これに到達する方法は二つあり、両方とも採用すればいいと思う。一つは歴史のおよび、政治的教養をつむことで、もう一つはグループによる討論である。これによつて本質をできるだけ多くの生徒が知り、特にリーダーはよりよく意識して自治活動へともっていく。これが自治会を活発にする方法の一つだと思ふ。ただしこれはあくまで実践に重点をおいた考えである。

現在の大手前

現在の大手前の中には、頹廢的な空気が満ちているように感じられる。勉強以外の事に対して、今一つ活気が欠けている。そのくせ生徒総会などで全校生徒が一緒に集まると今度は、うるさく騒ぎ出す。

結局は、利己主義者が多いということである。自分さえ良ければ・・・といったような感情が、多かれ少なかれ各人にある。

しかし、コチコチの点取むしの集団ではない。青白きインテリとは、かなり違ったイメージである。三年生などは、かなり頑丈そうな体つきだ。一に勉強、二に運動といったところか。スポーツの校内大会も、割に活発だ。ただ、試合時間が少し短かすぎるのが気にかかる。

クラスの様子も、学年ごとに、そして各々一教室ずつ違っているようだ。大半が一諸に集ってガヤガヤやっている所。少数のグループが点々とできているクラス。勉強なんぞクソクラエといったような調子で（

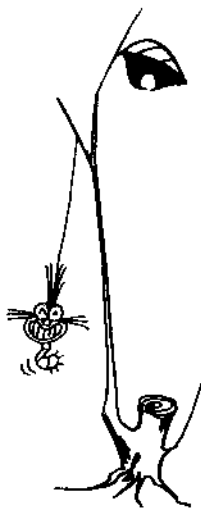
卒業する我が先輩におくる・・・
今日の苦しみはじつと耐えようではないか 友よ明日なけ

あるいはうわべだけ、そう見せかけているのかもしれないが、室内、廊下、所狭しと暴れまわる者の多いクラス。そして、その反対に、「お隣は何と野蠻で、うるさいのでしよう。」と言いたげに眉をひそめて、それでも一心不乱に机にかじりついて、何やらごそごそやっているクラス。一学級全体が同じことをしているという例は、そうたくさんはない。たいがい、右に示したような特徴を、少し混合している。

大手前は、第二区においては、他校よりも幾らか、一流大学と世間一般に言われている学校への進学者が多い。が、それでも、勉強一辺倒ではなく、体も鍛えまた恋もして、というような面もある。こういう面は大手前を点取虫の集合と誤解している人に、よく知ってもらい必要がある。しかし、事実、そういう人間も比較的多いのである。

僕は石炭小屋の老人たちと食堂のお姉さんたちのことを絶たいに忘れない。

ソローやつばり自分のやりたいことを思い切りやんのが一番エエデ。マア何事においても中途半ばに終わらさんことデスナイヤホンマ。



大手前の自慢

乾 貞 史

本校の自慢とは、大学の入学率が良いことぐらいで、運動は弱いし、文化系クラブの活動も何がどう成っているのやら分らない。校舎は見ての如く明治の遺物かと思われる程の代物である。運動場は狭いし、恥をさらけ出すと、本校生の行動の緩慢な事は、他校はもつとひどいなどと言ひ者があるかも知れないが、自慢には成らない。高校生になると、不真面目に成るのが当然の如く心得えているようだ。

と色々と良くない事も数多くあるが、良い事は数少ない様だ。もつとも他校を知らないので比較することが出来ないけれども、これを書く今、周冊の友達に聞き回しても、満足な返答を聞かれない状態である。裏書して言えば、校舎の古いのは伝統の有る事かもしれない。クラブ活動の成績が悪いのは、勉学に夢中であるためかもしれない。

本校に心を落ち着かせる潤いが少ないことは確かであるが、どういふ手違いからか、願書を出そうなど新春、大地からは、小さい生命が育つ。それらには、はちきれんばかりの活力、生命力が満ちあふれている。あなた方もこのささやかな草木の如く、各々強く生きて欲しい。

という、大それた事をやってしまった今となってはもうおそい。

本校の自慢は校舎、設備に存せず、各々の中にある。

大学ブルース（港町ブルースのかえうた）

1 背のびして受けた大学は

落ちて落ちた気がしない

仄かな希望を来年にかけて

大学 京都大学 法学部

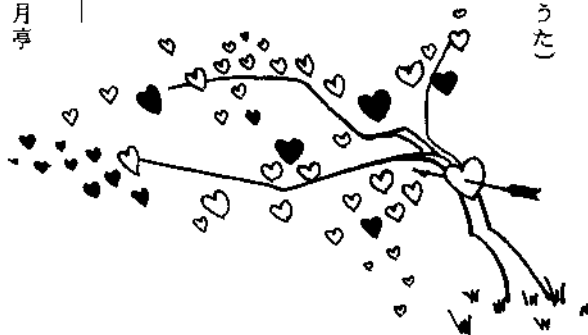
2 (一年後)

今年こそはと思つたが、

とうとう二浪となりけり。

予備校がよいも、ああ楽しやないぜ

大学 大阪大学 工学部



のぞけるやおおまへんか 月亭
オーツ めでとう 三枝
パチンコでけるやおおまへんか 可朝
卒業おめでとうハン 仁鶴
パツチリみれるやおおまへんか 可朝

来年度の競争率を高める書記長

喜劇

人生の或る真理

馬場 徳吉

低くたなびいたスモッグの下で
コンクリートと鋼鉄のこの大都会は
今、静かに暮れようとしている
にぶいネオンサインに色どられながら、

師走の風が気持ちいいと言った
僕の傍で静かに立っているおまえは
今、いったい何を考えているの
北風の吹きすさぶ
この大都会を見下ろしながら。

ああ、今ここに居るのは
おまえと僕のみだけだけ。
何か口に出すのがこわいような
それでいて、黙っている
時間がムダに過ぎて行くような
彼女の目から出たひとこと、ひとことを
僕はそっとたいせつに
胸の中にしまい込んだ。



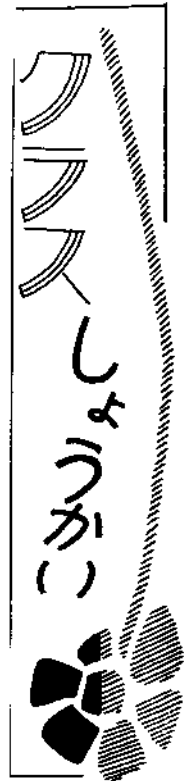
やかてふたりは夕暮れの公園で
さよならを言って別れた
夕陽の中に彼女の後ろ姿が
一点だんだんと小さくなっていく。
僕になんだか急にうれしくなって
走り出してしまった。
人生ってなんてすばらしいんだろうと
そう考えながら。

「高校生のうちにしつかり勉強を、なんてのはやはり大うそ
真実は、高校生のうちにしつかり遊ぼう」ということをはつ
きりと感じた。君達は我々の分まで大いに遊びたまえ
でもやはり勉強しなさい。」 墜落した先聲

講堂のピアノは、語りに添えた音を出し、音楽室の黒布を
かぶつたのはホンマリ重く、もう一つのはジャズ向きであの
奥のは、ドロくさい。

ヨビコーという所は仲々居心地が良いそうである
おれはそこで待つているから、君も早く来い。では一足お先に
いぐらつらい事があつても、苦しい思いをしても、それは
後になつて考えると、きつとなつかしい思い出となります。
自分を最大限に打ち出して下さい。

感 無 出



一年一組

ある日突然、大手前に入りました。あんなに勉強していたからか。いつかそんな時が来ると私たちにはわかっていました。ある日突然みんな乱れてきました。みんなは互いの瞳の奥を、そこに何かあるか急にしたりたくてみんなを見ました。一年一組の場合は余りにも変わった人が集まり過ぎました。一組の場合は、余りにも上下左右、変化に富み過ぎていました。四月八日の入学式の時、大手前の朝に集った人生、四十八。一組生徒。朝先生は遅れては来ない。だから走って登校するんだね。一日二人、三日で六人、遅刻は後を絶ちません。一組は遅刻が多い。汗かきべそかき走るんだね。先生のつけた遅刻表には、きれいなバツがつくでしょう。最初は勝てると思っていました。スポーツ大会、一度だけ不戦勝で勝ってはみたけど、何となく、二度が三度に、たび重って、負けつづけた、万年べった。はいったクラスが悪いのか、それとも生徒が悪いのか

羽よりも軽いものはチリである。チリよりも軽いものは風である。風よりも軽いものは人生である。人生よりも軽いものは無である。



何もしないで、いるのは悪いから、参加するだけ、参加した。みんなが講堂でささやいた。「夜明けの歌」は一組が結ばれた記念すべき「夜明けの歌よ」一すじと輝れる。このほほの涙に、みんなも、ぬれていた。なつかしい「夜明けの歌」よ、忘れないのは、あのひと時、一組は今、結ばれたの、先生にしてみれば、ささいなことでも、生徒にしてみれば気がかりなの。数学は弱い弱い教科と知ったから、チャートがなけりや生きてはゆけないの。うそでもいいから、点数ください。テストの後で点数を（みんなの心のことを痛烈に訴えています。）時には、赤点のないテストをやつてみたい。だけど人生そううまくいかない。赤点のないテストをするためチャートはいつも、はなせない。なんだか一組の悪いことばかりを言ったようだが、ほんとはもっと、もっといいクラスなのだ。これはほんとうべし。

一年二組

沿革

入学当初は、さすが「大手前」で、毎日心情三派と現状維持派の政治討論に明け暮れていたのであります。

冬のきびしさを知るものが、最も春のありがたきを知る。人生も同じこと。苦しみのない人生なんてありえない。高校時代は人生の順風につづいている時期だ。試験は前方にまわうけている。

しかし互いにそのエゲツナイ面を憶えだしたところ、どこでどう間違ってたか、男子は食堂派へ大合同、女子はその恐ろしき爪をときつつ、沈黙を守っていたのであります。

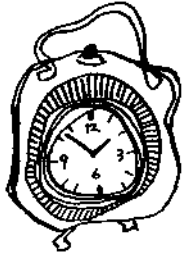
この頃から、我組は、核家族ならぬ核グループの閉鎖的気配にさいなまれ始め、この中において、H・R執行部はグループ再編成、グループノートを強行、汎クラスの団結をはかりました。またこれと同時に、女子は探偵事務所を設立し、ノートのコマリシヤリズムの波に乗って「人類の偉大な躍進」を遂げました。(これによって、我組にも女性上位が確立。男子はマンガによる教宣活動等ゲリラ戦術で対抗しているのです。)

しかし、自治会祭展示失敗に始まる二組の歴史はその道筋を変えず、現在に至るのであります。(参考書よくわかる一年二組の一年史)

現在、二組は細分化されたような、つまり個人主義が慢えんしている。二学期に始まった、かのグループノートは年が新たまって存在も危うく、放課後にはノットする音しか聞えない。毎朝、マラソンする常連や授業中は最後列七士が高いびきだったり。女は推理小

大学の試験にすべっても

いいじゃないか幸せならば!



説に疑り、男は○教育の本にうつつを抜かしている。しかし、しかしてある。すばらしい(?)個性の集りたる我が二組は残るふた月を生かせると想うのである。この「ブスと気違い共」である。(一年二組を斬る。参照)

あとがき

最後の賛辞のためオリジンのできなかった著者は、大阪城の見えるこの教室で想うのである。・・・やっばりオレの彼女が一番きれいだ。と

ゲバゲバ・ビー

「あっと驚く美男、ブス」の集まりである一年三組とは、朝のホームルームで討論会をする、しない、を一年間も討論してきたという奇想天外破廉恥集団である。つまり、どの高校にもあるような支離滅裂のクラスなのだ。自称極悪七人衆なる調子っぱずれの野郎たちが授業になぐり込みをかけたためであるうか。

自治会祭では「結婚式場」なるものを聞き老先生方をいびり、運動大会も参加したようであるが、男子はまったくうだつが上がらず、女子は顔の威嚇によって

イツヒツヒ、ウツフブ。アハハ。ザマミロ。

合格者のキチガイ野郎

ガツクリ。チクシヨウ。バカヤロウ。カアチヤン。

不合格者のイカレ野郎

来年はこうなるのだ。



かなり勝ち進めたようである。コーラス大会も出場したが、どこかもれたような声だったため、御霊歌とま
ちがえられて予選で失格。

このような集団の中には、机にしがみついている頭
の形のいい者、変なアダムをつけられて喜んで嬉し
しがり、睡眠中であてられてもストラ読めるという
バカボンなどの特色、特技をもつた、顔のおもしろい
人間がおもしろくもなんともない連中と生活を共にし
ているものずきな連中の間で二・三の例をあげると、
授業中に堂々と、すばらしい音色をかき立てる者がある。
つまり、屁である。冬にガラストープの火が消えても
疑われるというのだから日に何パツするかが聞きもの
である。先生に対するいたずらもはげしいもので、教
室におとしあなをつくって、二度も先生をおとした。実
はそうじ用具入れのふたをずらしといただけであるが
わざわざそこへ行かすために、黒板に落書きをしたの
だから念がいつている。他に質問せめて授業の進展を
妨害するとか、小テストの時に、前の時間の数学の模範
解答の間に答を堂々と書くなど、教えあげたらきりか
ない。後輩諸君はくれぐれもこんなクラスにならない
ように。最後に我がクラスのつけた先生のおだなを少

マーチャングイズマートに登つて大阪城を見て下さい。

それから府庁、通産省、その間の地溝がおそらく大手前です

私のことを忘れないで



し紹介しよう。どれがどの先生かは諸君らが考えてく
れたまえ。ケムンパス、デバガメ、バパンツ、スホベ
イ、オコゼ、キンチヤン、・・・。

一年四組

木枯しは激しかった。裸の並木には、春の息吹をも
夏の精悍さも、秋の華麗さと感傷もなかった。ただ腐
りかけた落葉が、乱れ飛び、枝が音をたてるのみであ
った。

赤いネオン、青いネオンが交錯する中を、車の怒濤
の中を、一人の男が歩いていた。

もう東の空は白みかけていた。

その男は、コートの襟を立て、白い吐息をはいて、
前にのめりそうに歩いた。

車のヘッドライトが、まぶしかった。

東の方へ、ただ、夢遊病者のように、時々おそってく
る自責の念と、悔恨と、そしてそれを打ち消す自分の
ある意志とを持ちながら。

朝陽が昇り始めた。その赤さは、神秘的とも言える
程、美しく、壮麗だった。

ビルに影が浮かび、アルミの窓はまぶしく反射した。

声「「きよなら」「あノせいせいした」「通るかなあ・・・」

「教師バカヤロー」「おかげさまで」「へい、ご委屈さま」

「しんどういこつちや」「ノまであとノ日」「辰かつたなあ」

「もう卒業か」

その男は、旋律のない歌を、歌い始めた。「朝陽の前に、私は祈る。愛の朝が来ることを・・・」。だがそれを打ち消すかのように、ある旋律が包んだ。それは、止め忘れた、カーラジオから聞こえてきた。

「生まれた、時が悪いのか。それとも、俺が悪いのか・・・」。なぜか心が痛かった。

(配役 木枯しー時間 並木ー大手前高校 朝陽ー求めようとする未来 ビルー日本 男ー一年四組) アアイメチヤキザー・イキナナー(効果ー佐藤総理・小道具ー先生様 製作ー中教審 代埋人ー坂田文相) 拍手 (勸声) がはいる。俺に書かしたのがアヤマチだったね。

一年五組

一年五組の紹介文を依頼された時、作者は困惑した。すべてに關して二流である我組をどう紹介しようかと・・・

春！授業中の居眠り、まだ、ごく少ない。

中間テスト、この時より、五組の二流化が始まる。バレーボール大会、御達のハチマキ作製の効果空しく、一回戦で、ヤメタ

すわれればマージャン、立てばパチンコ、歩けばボーリング
ああ楽しいかな大学生生活

自治会祭・○○四という莫大なお金をかけた。「アダムとイブ」は、観衆の人気を博したらしい。

(希望的観測)

夏！旧式のトースターで焼いたような美女？ 数匹登場 (某社より出演交渉を受ける。)

勿論 アノ役です。夏にはつき物デスネ。

水泳大会、無欲の勝利、しかし、賞品はすべて、女子の掌中におさまっている。

秋！体育大会のすべての競技に、鷹揚な貴族的精神を發揮、勝敗は問題ではニヤイノ

文化祭、ひたすら他校のそれと、フォークダンスのみ楽しんだ。

バスケットボール大会に於て、女子は初めて一勝を収めたが、男子は可愛い子チャン連の応援を気にせず、カツコヨクマケタ。

冬の声(応援に来てたん、女か。)

冬！「イビキ」をかいて眠る者、この頃既に五指に余る。

見た事がないせいであろうが、ガストロプの周囲に群れる者、多数。ストロプの上で、お餅を焼こうという作者並びに悪友の企みは、先生の目を恐れて

「友だち」って、やつぱり必要だね。

楽しくなるよ、うれしいよ。

綿菓子のようにフワフワと飛び去った。
ハンドボール大会は、美しくも哀しい敗戦を喫し
サッカー大会は、残念なるかなコイン負け。やは
り、貴族は、お金にコセコセしなかつた。
まさに、「タケシバオー」か「スピードシンポリ」
の如く速い一年であつた。



一年六組

一九六八年四月八日に発足をいたしました一年六組と
いう素晴らしい学級。ボクは初め「どんなかなあ」と
思っていました。今では「こんな」でしたと思
っています。「こんな」だと思つるのは「かんたん」
でした。

世界中いや宇宙中の騒音を一手に引きうけているの
が我クラスである。

「その時一六に何が起つたの」「いつもの先生
にテストをあずけた」ヘッセの書いた上述の詩のよう
に味気なくおもしろいのが特徴おもしろいうたら、
もうそのあいやほんまエゲツナイどつせ。学校にし
てみればほんのちっぽけな一つのクラスでも一六に
してみれば気がかりなの、とか何とかいう可朝の歌に

人生の一山部である大学その中に入りこもうとする
君自身の姿をもう一度考えよ

なかつた歌がびつたりあてはまるクラス。「素晴らしい
な」

もし大手前に一六がなかつたら大手前高校は存在
し得ないことになる。大手前高校が大阪になかつたら
大阪は存在し得ないことになる。大阪に日本が存在し
なかつたら日本は存在し得ないことになる。日本が地
球に存在しなかつたら地球は存在し得ないことになる。
ゆえに地球が存在するためには一六が大手前に存在
することが必須の条件なのである。

ぼくらのクラスはどうやら女性上位の傾向が多分に
ある。校内大会においても女子のカッコイイ活躍に反
して男子はカッコワルイ活躍をしている。諸君男子の
みじめさを察してちようだい。毎日毎日いじめられ教
室のはしつこでのさばっている姿を。

一年七組

分類・H・T・R (Erlactio Lunatio 田)英雄狂気
的H・オツベンによる

超狂的混合脳狂区域・・・ホイットオットセ
イによる

形態・清水一家的シナトラ一家型(まとまつている

よう勉強しーや。オレみたい浪人確実になつたら
あかんで。



ように見えるが親分がオカシクまとまらない
識別基準・サインはH (ハンセンより先) (カリシヤ)

キムズ(イム)

この旗印のもと、七組は、多くの球技大会を
征服した。

信仰・一信教 男子・どういわけか、百円玉の表

側をこよなく信じている。

女子・無神論という信仰が流行(特

定の男子をアホみたいに信仰

しているやつ(二・三)

分派・①組・名の通り、アホの集まり

与太郎組・体制内口先革命者同盟(ようやる)

キヤイキヤイ組・前出、特定男子信仰者のほ

やき連盟

主婦連・ストープのまわり占拠常連者血盟

(命がけて汗を出してストープに

あたつている。)

まじめ組・ほんの少数(筆者のみ)

FLORENTIN. ENROD. KATYBASS

でやんす。

あなた方の残した業績は偉大なものでした。

早弁、授業中における安みん法、内職などいろいろ学ばせて

いただきました。どうもありがとう

一年八組

ガチャガチャとした集団である。四月には勉強の昆
虫となり予習に専念していたのが、今では「運動」、
「会話」「恋愛」と暇があつてしかたがないようすで
ある。

一人一人をながめてみると、遅刻四十回は越すとみ
られる記録男。魔女リカをおちよくった美男子。閉会
勸議提出委員長。二代目仁鶴。ヒゲムジャラ。ハレン
チ会長。不良四人娘など、教え切れない名物人ぞろい。
ここで一八特集。名誉褒を発表しよう。

遅刻、他を引き離してトップ。又、美術の時間、出
席者二人だけという記録を保持している。

真剣に怒ることのない朗夫先生を怒らすという大事
業を打ちたてた。・・・この大事業は、破廉恥に
もストープでモチを焼こうと、モチ二十個、モチ焼
き器まで持参した我らの総大将、輪北(仮名)会長
によって実現した。なお、おこられた後焼けたモチ
を食べた男も見捨てがたいアホである。

三バレーボール決勝進出。一年から2クラスだけだか
ら(当然)かなりのところである。なお決勝では、
三年に謙譲の美徳を示すことができた。女子バス

君達の人生は喜劇でも悲劇でもないが故に

絶無に悲劇だ。そして死ぬまで、喜劇を、ドタバタ喜劇

を続けるがいい。ただただ、時は過ぎて行くのだ。

ケットでは、ノーシュートノー得点という偉業をやったのけた。

四文化祭クラス参加。大手前創設以来史上初めてという貴重な体験をした。その参加テーマ、なんと「大阪城」という空前絶後の迷題だった。この後も、文化的行事に積極的に取り組み将棋、花札と日本の国技を繁栄させた。

最後は一年間をふりかえると、「カバン抱えた渡り鳥（ヨウヤル）」を終えて、定住生活を始めるころから、みんなとも楽しくなってきた、楽しかったと思う。他の人もそう思っているだろう。とかく灰色といわれる高校生活一年ぐらいは、楽しく、はげも少しは、はずしてよいと思う。（あとがこわいが）

ホンジャ。マア。サヨナラ、サヨナラ

一生九組

とにかく騒がしいクラスだった。担任が、始終ニコニコしておられるためか、生徒の方もニコニコ。ただし、九組から笑いが絶えなかったのは、クラスの二割と半分位の万々の涙ぐましい努力によるのである。笑ってもらおう笑ってもらおうと、幾度もダ洒落を放つ

おたつしやせー

まわらぬ舌でむづかしい事をいうより、もつと自分の足でしっかりと立てる人間になつて下さい。

だが、結局まぢがえた時にしか笑ってもらうことのできなかつた。君、仏は小さいが、大きな声で頑張る。君も、半分程度不発に終わっている。また、清澄も教師をからかうこともできない納情というか、気の小さいというか、この筆者は、ただひたすらに自己犠牲としたオチを持たま繰出して若干うけた。が、その合間から、冷たい軽蔑の視線が飛んでくるのをかわすことはできなかつた。あとは時たま、思い出したように奇声を発する者等、伏兵である。この騒がしい連中は、無理をして大学なんぞへもぐり込まずとも、落語や漫才などで、りっぱに食っていける。

また、非常に親切でもあった。九組には一人、ズバ抜けて成績の悪い生徒がいた。男子連中のみならず、女子まで彼をバカにするのである。が、数学の勉強などで、どうしても解けず（もつとも、解けない方が許けたのよりずっと多いのだが）説明を頼むと、笑っていいねいやってくれた。（ただし皆、そうすることにあって、ひそかに優越感と満足感とを味わっているのであつた。）

運動も盛んで、初夏のバレーボール大会には、みごとに優勝した。冬になると、星休みには男子の姿が、

試験はナンダ、大学がナンダ、人生は長いのんびり

いこう。



とつ然と消える。サッカーをやっているのだ。

二時間目が終わると、半数が弁当を開く。

三時間目が終わると、ほとんどの弁当箱にむしやぶり
ついている。そして昼休みには、もちろん食堂へ出か
けるのである。

放課後には、M君の主催する「大阪城を走ろう会」
に属する者が、いさんで体操服に着替えてとび出して
ゆく。最初、M君は、美容の為にヤセねばならぬと一
大決心をし、走ることを始めたのだが、付属している
連中は、そんなこととは全く無関係に、鍛練の為に
ウカモンライジユをかぶつて、大阪城公園のアベック
の生態を観察しに行っている。そのひたむきな生物研
究熱心さからか、雑問雑いの二学期末テストの「生物」
では、かなりの得点率をあげている。

今まで、脱落者もなく、皆が無事にやってこれたの
は、この筆者のおかげだと、小生は信じて疑わない。
テストで悪い点をとつても何か失敗しても、彼らは一
様に小生を眺め、そりして優越感なり安心感を得てき
たのである。常に心に安らぎを与えてきたこの筆者に
九組全員で感謝の意を表わねばならない。

(ちなみに、筆者の肩書。「反体制主義者。睡眠学習

私のおこがれの人。その人も卒業

涙がでるけど笑顔で送ります

もつと素ばらしい人になることを信じながら・・・

最多記録及睡眠時間最長記録保存者。欠点最多記録保
持者。学習及運動最低記録者。睡眠学習と、早弁を普
及させたのも筆者である。)

オシマイ

二年一組

モトレスリストンコロリオン

御存知のように、我が二年一組は、美女及び美男子
の多いので有名である。それゆえに、カッブルも多く
うらやましがらる先生もでてくるほどで・・・

真疑は、確かでないが。

自治会祭においては、創作力をいかんなく発揮して、
シエークスピアの劇にまさるとも劣らないものを作り
あげて、一大センセーションをまきおこした。又一大
行事であった修学旅行のときは、多くの人が部屋に集
まって、学校では、できないよりなことをして、親交
を深めたものだ。

白雲の時は、社交屋(家ではない)や理知的な人が
多いせいにか、アタタかい談笑につつまれ、○○や○○
の授業では、自己に陶醉しているのか、まぶたがひ
つついてはなれてくれないのかは、どうでも見えけど
静かに、黙想している姿をみると、天下泰平を思わせ

悲しみはかけ足でやつてくる、そして別れは全速力でやつて
くる。さようなら弟よ

て、まことにホホえましいかぎりである。

しかし以上のような反面、昨年三教師にお招きして文部省見解について、おそくまで残って討論したことは、記憶に新しいが、なかなか理論的な人材を要していることは、一大特色である。

概して、外面的というよりむしろ内面的にすぐれている人が多いのではないかな。これは、いつわらざる真実。

二年二組

担任は片山先生。番長いや会長が一族郎党四十七人を引き連れて住みなすは、大手前の村はずれ、府庁（の食堂）に近いだけ取り柄の「暖」という字とは縁がない北国である。チョット（？）女性上位で、テストがあれば、常に平均点を追ひ、校内大会があれば、しばしば謙讓の美德を発揮する。クラスをざっと眺むれば、デーンと控える女子レスラー連、あっちこっちに首をつっ込むうれしがり野郎、大臣にファンレターを出す奴、手芸にこるオンナの子……。また各運動系クラブのホープが集まっているのも、このクラスである。（ああそれなのにそれなのに、校内大会をぜ弱

目標は常に、上にあり、天にあり、大きく目を開いて
独歩しよう。



5)。

以下我々が、我々のクラスに下した診断書である。
△朝のHRには親○○がバカバカしやべり、E日では子○○がバカバカしやべる組▽（○○はナニ？）△各自が強烈な個性を持ち、空中分解しそうで融合している▽、△やたらにしやべりたがる奴と、やけにおっとりしたのが同居している両極端のクラス▽（ゴモットモ）△おしやべりな男の子とうれしがりな女の子と、おしやべりな女の子とうれしがりな男との一大集團▽、△断絶 断絶。夢を食らふ男女、何とも言えない▽（アンタアホですわね）△吹きぬけるすきま風、火の消えたストーブ、かたくなにストーブの側を離れようとせぬ奴ら▽（或るストーブの恩恵を被れないコ）△教室は汚いし、広々として寒いし、全くすばらしいクラスだ▽（？）△美人がいない。アノコを除いて。イヤホンマ▽（ヨイヤル）最後に決定打△典型的な男損女肥のクラス▽（世の中変わった。古き良き時代よ）△つまり、現在の言語では形容しがたい有機集合体△世の潮騒をよそに見ず△に、まともに見ている。それが我が二組なのである。（オシマイ）

在校生よ大志をいだけ！



二年三組

二年三組で、どんなかなあ、いうたらまず明るい。受験受験と必死になつてゐるのなんかおれへん。それに、適当に個性的や。いろいろあるで。そやけどちよつと、グループが多うて、まとまれへん。それでもラグビー大会は学年優勝したやあまへんか。

休み時間は、より食うとるで。昼休みは、あんまり食えへんけど。授業中は、またおもしろい。意識失のうて、倒れてる。先生方が助けにくるやあまへんか。いやほんまやで。

ストープのまわりは、むずかしい話が多いで。中国語で教をかぞえるで。馬の名前もよりでるで。教をあてたら、金がもうかる。そやけどもうけたら、みんなにおどつてるやあまへんか。

教室のすみで、かたまつてゐる奴らの話は、おもしろいで。もちろん、やらしいで。わるのりしたら、あさまへんのんだっせ。

たまには、花札やかぶもやるんやで。人にいうたらあかんねやで。

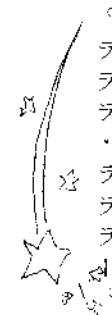
二年三組でこんな上品で、まじめな組やあまへんか、こら、ほんまやで。

コレイジヨウニアイノガツコウハアリマセン

イマズグ ウケルベキデス

ソノナワ ○ ○ ヨビコウ

前の文は、筆をつけて読むとおもしろいが、なにぶん、氣遣いが悪かったので、真実をありのまま伝えていません。某国駐ブラジル大使の文章の如くであります。慎しんで、三組関係各位に、お詫び申し上げます。どうか、氣にしないでね。二人は若い。小さな星さ。悲しい歌は知らない。ラララ・ラララ。



二年四組

クラス紹介をなんていうても、何にも書くことあれへん。みんなバラバラという感じや。

でもコーラス大会にはがぜん一致団結。これまた指揮者がええわ。優しゆうてようめんどうりみてくれて、「お母ちゃん」いう感じやわ。

おまけに声量があつて、ソプラノ・アルト・テノール・バス・四つのパートを全部出せるんやで。課題曲「森の教会堂」はテンポ、強弱を変えてこの組の歌にしてもらた。題して「オーノ カムカム」

「あの時は眠たかつたなあ。なんせ朝練がきつかつたからなあ。」「しやけどそのおかげで二位になつてんで」「ほんま、ようやつたなあ」

これでグリーンとクラスがまとまつた感じや。そのか

やりたい事が多すぎて、何もできなかつたこの三年間。

この世には勉強よりも大切なものがいつばいあることを忘れないように //

わスポーツ全然さへへんなあ。いつも他のクラスに謙讓の美德を発揮しどりしや。

それから、修学旅行で誕生パーティーやったこの組だけやるなあ。本人にとって記念すべき日やで。でもやっぱりいつもはバラバラみたいやけど、底のほうで結びついているいうことや。

二年五組

別館二階のつきあたり。夏暖房、冬完全冷房。夏はともかくとして冬はたえきれない。

この大手前でストロブも効かない一番寒い所に我が二年五組はある。

ところがこのクラスは悪条件にもめげず、文化祭ではコーラスで優勝し、校内バスケットボール大会に於ては男女とも校内優勝した。

文化面に於ても運動面に於ても大手前制覇をなした大手前第一のクラスである。

その上驚くなかれ、英語のミ先生曰く「二年で全科目欠点の悪いクラスはこのクラスだけだ。君等の顔見ながらそんなにかしこそうに見えないが」これには先生ばかりではなく我々でさえ驚いた。

白い壁は汚れやすいけど、それでもやはり傷つきながら

守って行つてほしいのです。

こう書いてくるとみんなはどんなクラスか見当もつかないだろう。このクラスのメンバーはといえば、各々個性の強い人間のあつまりである。そして担任の指導のもとに各々の個性を伸ばしている。

ただ残念なことには、少しグループでかたまると強いことと、討論会とか自治会からの提案などに関する討論があまり盛り上がりならず、一部の人の話し合いに終わってしまうことである。このことは二学期が終わった今もあまりかわらない。では協調性がないかといえれば校内大会などにはガツチリしたプレーヤーのチームワークや応援が行われている。

とにかく男女の話しあいも多く楽しいクラスである。

二年六組

一教えてアナタ、六組でどんな組なの」とルリ子に聞かれたので、書くことにしよう。

オモシロカル短だ。四八人を飼育している、あの数学の、あのやさしいルックスの井手昂(タカシと読んで)先生が時々手を焼くほどエネルギーシユを連中の集合体だ。

すまし合いの均衡が破れたのは、スキヤット 自治

サヨナラ、我らの後輩達。可愛い子もいたけれど、にくいやつもいた。でも、今となつては、みんな観音さまのように見えてきた。今度会う時は、浪人か、大学生か? ああ

会祭最大の喫茶で自治会の財政を救ったことだった。それ以後の協調ムードでよく遊んだし、少なかったが討論で活発だったし、修学旅行のダベリングも忘れたくはない。その調子で活動写真を制作した。資金も、シナリオも演技も自前で本格的な悲劇。(非劇というウワサあり)。体制に反して成人映画を見る情熱家のスタッフと、個人的なマスクのワノリ役者との冷汗の結晶なのだ。撮影中に吹き出したり、フィルムが切れたのも知らず淀長も驚く名演を続けた専ら苦勞で、制作は作品以上に波乱万丈だったが、僕らの一年の記念碑になればと思っている。

しかし、運動となると、顔の威嚇も及ばず参加の義務を果たすだけだったのは残念だ。

さて、各人を分析すると、その個性的な人が少なかった。エネルギーを表出しない、おとなしい人が多かった。それで短がナイトナクまとまっていたのかもしれない。

とにかく、高校生活の多いや終わった、この一年間は決して明日なき十代の生活ではなかった。六組にいてシアフセ・と出ているのが筆者だけではない。

今日も大阪は美しく輝いています。

大手前の奔りをもつて、どうかすばらしい

未来にスタートして下さい。

とを願っている。

最後に白費が許してもらえたら、このワルノリク
ラスにこんを賞辞はどうだろう。

「若いのに、ヨイヤル」

ワー二年六組に栄華あれ

フエイド・イン エンド・マーク

追試いや追伸 映画を見たい人は、梅田のカラ座
で近日、関西独占大ロードショウを行いますので、ヨ
ロシクネ

二年七組

わがクラスは一言で言って大手前約平々凡々クラス
であると思う。それは担任の上総先生の氣質を反映し
ているのかもしれない。

カバ先生曰く(いや、矢礼)「勉強は努力の積み重ね
というありがたいおことば(おっしゃる時には鼻の穴
から湯気が出るとかいううわさもチラホラ。筆者は、
常に仮眠中に見ず。)を、教育勅語とばかりに忠実
に守る方が数多くいらっしやうた。これまた、それは
は反対に、個性のありすぎる(顔からしても)連中が
二の七に活気を与えていたことも事実である。漢研(

君、若いんだらう。夢もあるんだら、情のままに生きてたまえ

心のままに動きたまえ

理性なんて気にするな/愛と恋とに生きてたまえ、

僕もそう生きてかった。

漢方薬研究会)などもあった。それから、女子の早弁でも有名である。弁当箱をあさる十九人の間で男子数人がつつましく食べている次第である。

学校行事での活躍は、まず第一に(ホントはこれしかない)。自治会祭での夜店が上げられる。ここではからの悪い(顔も悪い)連中が香具師として活躍したことはいうまでもない。ついうっかり、仁儀がとびだしたとか?。もし順位が決められていたら、第一位であったことはまちがいないと自負している。スポーツ大会においては、他のクラスに、わがクラスほど感謝されているクラスはあるまい。(なにしろ人のいいのが多いから。。。)

しかし、わがクラスで一番残念だったのは、筆者曰く「カッブルができなかったこと」である。理由は、ガリ勉諸子が多かったのか、美男子がいなかったのかは想像にまかす。

(美女は数多おはせしと思っっているのココロ。)

残り少ない高二時代である。あまり楽しいクラスであったとはいえないが、まあ人生楽しいことばかりじゃない。しかし、楽しくするのも退屈にするのも自分次第である。これを人生の一ステップとして成長すればよいと思う。

卒業おめでとうございます。でも卒業した後は大きな顔をして母校へ来ないように。

二年八益

純白の細雪も、まだまだ、天上に潜む冷雲の中にかたく燃っている。といった感じのする、ある晩秋の昼下がりに、睡魔にも襲われず、真面目に現国の授業にとけ込む、先生の話に聞き入っていたのは、私を含む数人のみであった。私は疲れた耳目を授業から、つと遠ざけ、周りの寝顔に目を回した。その動作は、永続的なものに変化した。いつもと違って。私は、授業からまったく遠ざかり、他人の顔を、面白く眺め回したのだ。机にバツタリと伏せている者も在れば、規則的な程度の者など、それぞれ傍若無人の状態を確保していた。いつもの品格が破られ、ホケツと口を開けている姿は、実に面白く、且つ可愛らしく感じられた。まもなく終了のチャイムが鳴った。皆の目が開いた。その時だった。その時私は見た。「静」から「動」が起るその瞬間に私は見た。「美」を見た。自治会祭にも球技大会にも合唱大会にも入賞できず、修学旅行から帰っても、もう一つ活気の漲っていきなかつた我が八組であるが、その時の皆の目は美しく生き生きとしていた。クラスはもちろん、本部役員となって自治会をも

高校出てから大学へ、大学出てからどこへ行く

大学のこりや、でつちぼうこう、社会へでりやみやずかえ、

こんなせつない世の中をわたつてゆかなきやならぬ

おれたちさ、おつかさん

統轄していつている各々の目頭は、微かな疲れを抱いてはいたが、流石に、前途有望なる人材となることを物語っているように思われた。修学旅行以来、未だ、あきずにランプをしょっちゅうやっている連中の目も輝いていた。女の子たちの目はと言えば、それは、まさしくエメラルドだった。寶石の玉だった。暗闇の中に光る黒ねこの目のように鋭い輝を發し、且つ雅やかであった。私はまったく奪われた。才色兼備の象徴であるかのような、生きた目を持った八組のみんな、それは、きっと有能な人物になるに違いない。

二年九組

二年九組誰云うた

音楽室の横に建ち

粹な書生さんが棲むと云う

一度は惚れてみたいもの

この有名な「二の九小唄」をバックに綴る九組一代記。各種スポーツ大会では、準々決勝進出を為遂げ、成績は学年平均より下を旨とする優秀な組です。冬休みの宿題を出さないと焦る者がいれば、夏休みの宿題をそろそろやり始めようという者もいる落着いた組

「心に太陽をもて」まさに空に輝く太陽じゃないだろ？

ハートがやけどするもんな

「いつも心に太陽を」

です。三時間目ごろになり先生が「おはよう」と言えば、生徒は「おやすみなさい」と答えるような礼儀正しさを売物にしています。修学旅行でも立派なノボリを持参してきたという模範的な生徒もいれば、パスガイドの悪口をぬかしなされるような生徒は一人も……男子では「はじめで〇〇した。」とか、「ジューウハチキンの映画を見にいった。」などと言うまじめな討論が交され、女子では「〇〇さんがオン鶏の卵を食べた」と言うようなことが話題になるような平凡な組です。そう、一言で言えば平凡なのです。大手前のなのです。顧問制が問題になったときもよく討論しました。でも皆が本当に真剣に考えていたのでしょうか。皆それぞれ個性的であるのですが、一つの箱の中にまとめて入れられています。個人的授業ポイントをやめる者もいる「ヒューマン」天才もいるし、頭のいい者（光り方）もいるし、女闘士もいるけれど、みんな箱の中に入ってます。良くない意味でも、悪い意味でもこの二年九組は大手前のな人間の集団です。（筆者である大手前的人間は、二年九組は集団にはなっていると思ひ。）兎に角私たちがこの集団の中で一年を送ります。この一年でも私たちが役立てようとしてきた一年です。

年です。

僕に教えてジエツト機でエベレストの上を飛んだやつは、

歩いて頂上にたどりついたやつより偉いんだらうか

述 賀 意

俊英卒業転清新 雛鳳飛翔向北辰
老骨肝銘鬱勃意 熱情多感是青春



福島先生

過去を逐うな。未来は待った、ただ現在の一念を強く生きよ。

計盛先生

「知力は可能と不可能を識別できる。理性は意味あるものと無意味なものを識別できる。しかし人間は、可能たことで、人間にとって無意味なもの創るかもしれない。」

ドイツ物理学者マックス・ボルンの言葉

浜田先生

天平五年遺所使多治比広成が難波を出る時、その母が子に贈った長歌に添えた反歌

旅人の 宿りせむ野に 露ふらば

吾が子恋ぐくめ 天の鶴群（萬葉集）

行徳先生

人生三分説に生きよう。二十五才まで親と社会に世話になれ、五十才までそれを返済すべく活躍せよ。五十才過ぎたら自分の本当の生き方をしよう。

伏見先生

最近頃に友人の死亡、病気で困っている様子が耳に入る。人生の最終段階では何といても健康が物を云うことを痛感する。

青年時代に身体を大いに鍛えることを忘れないでほしい。

綿谷先生

勉強とは一生続けたいもの、大学卒業後も不断に努力して下さい。智識のみでなく、人間を、魂を磨いて下さい。

清水先生

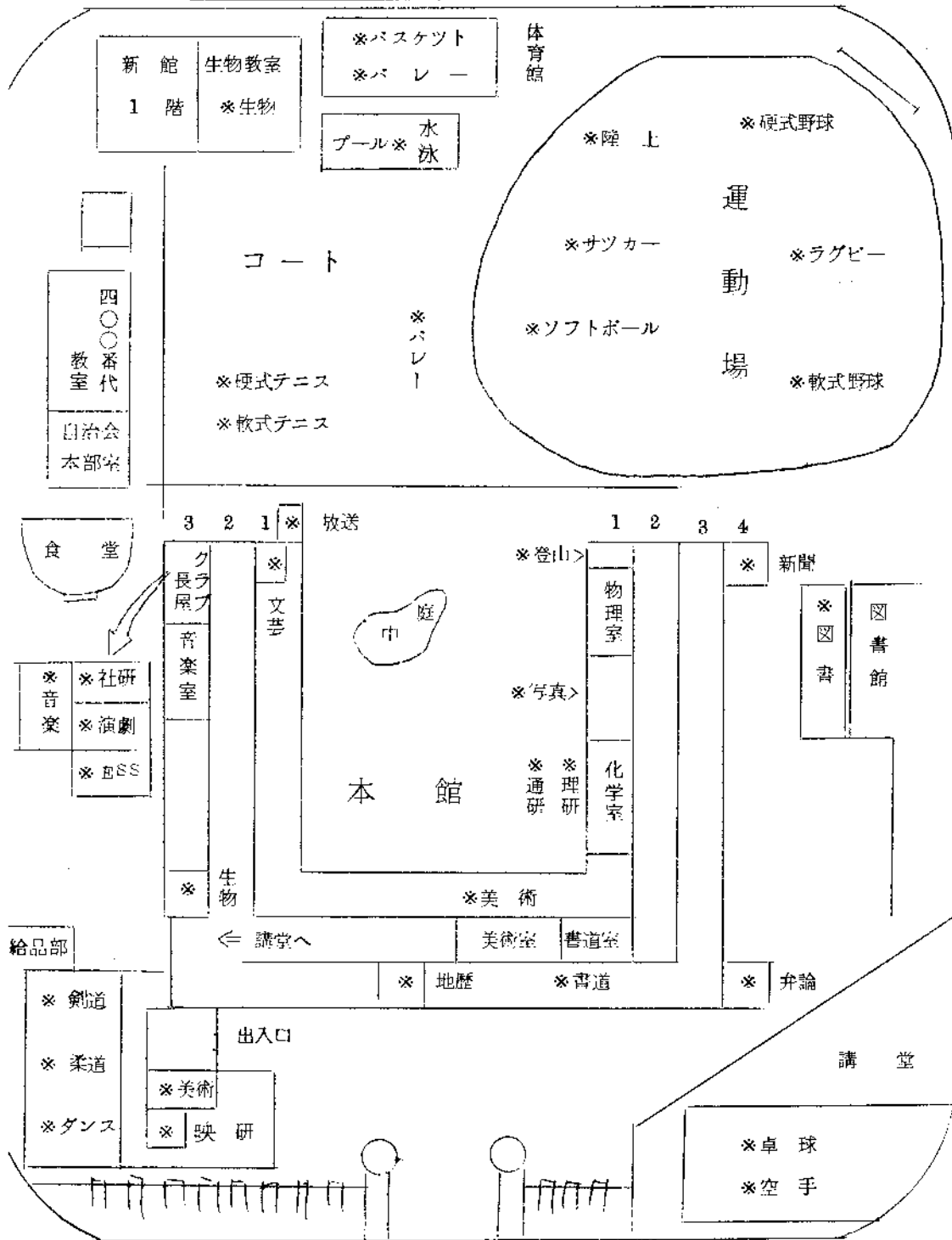
乱暴な言葉の週刊雑誌を見ないで、外国語彙典、仏語の雑誌を読んでコスモホリタンになりましょう。

松下先生

「絶えず真実の探究にあく事のない情熱を燃やし広く世界的に期待される存在となられる事を切望します。」

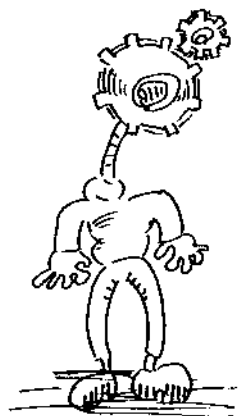
事務室 西山好彦

く ら ぶ し ょ う か い



運動クラブ紹介

クラブ名	人数	部費(月)	練習日	場所	スローガン
剣道部	20	50	毎日	道場	静勁一如
硬式野球部	11	150	//	運動場	今年は、ライバル明星を下し甲子園へ
硬式テニス部	35	100	//	1日おきでコート	ホワイトスポーツ
サッカー部	21	100	//	運動場	第二の釜本養成
柔道部	17	50	//	道場	精力善用・白他共栄
水泳部	20	50	//	プール	男女一しよにできるたのしいクラブ
男子ソフトボール部	13	50	//	1日おきで運動場	44年度大阪府新人戦でベスト4!!
卓球部	40	50	//	講堂	やる気だけですぐに4・5回戦へ
登山部	45	50	//	大阪城	すきなもの集れ
軟式野球部	12	100	//	1日おきで運動場	全員一丸とをってベストをつくす
軟式テニス部	43	50	//	コートと大阪球場	考えるスポーツ
男子バスケットボール部	21	50	//	大体とコート	チームワークをモットー
女子バスケットボール部	15	50	//	//	勝利あるのみ!
男子バレー部	12	100	金以外	//	サインはV
女子バレー部	20	50	//	//	アタックNo.1
ラグビー部	20	100	毎日	運動場	次は全国大会出場だ!!
陸上競技部	13	100	//	//	くつとシャツだけでかんたんにできる
空手部	20	100	//	講堂	忍の精神
ダンス部	3	0	火曜	道場	スマートな体に



例年だったら各運動クラブを紹介するわけだけど、運動クラブは、数行に言いつくせないしやってみないと分らない。そこで、やめていく人の多い人の中で、がんばってまだやっている先輩の話をもせ、それぞれ紹介にかえたい。(但、それぞれ所屬しているクラブ色が強いかもしれないけど、それは御容謝。)

野 球 部



岩 見 裕 三

僕のこの原稿が、かの有名雑誌「スプリング」に載るといので、張り切って書くことにする。クラブでの僕の体験談を書けばよいらしい。では、美しい音楽にのせて書こう。

僕は大手前の野球部員バットかついで生きてゆく。三年間の高校生活が、勉強だけで終わってはおもしろくないということでクラブに入ることにした。ちよろど、中学時代に野球をしていたし、ユニフォームもあることだから、硬式野球部に入ろうと思ひ、即刻入った。まだ人学してまもない頃だった。

思い込んだら試練の道を……。張り切ってクラブに入ったけれど、そこには苦難の道が待ち受けていたのである。あわよくば、最初からレギュラーというよりなことを考えて僕は、毎日キャッチャーをやらされるのは驚いた。野球部ちゆうところは、そんなに甘いもんやあまへんかったんだ。しかし、中学校の三年生の時、一年生がどれだけ大

切であるかよく知っていたので、自分たちの重要さを感じて、いっしょにけんめい野球部に奉仕したのである。そうこうしているうちに、夏の大会も近づき、練習がぐっときつくなった。中学校のクラブなんかは問題にならなかつた。しかし、先輩に聞くところによると、前の年はもったきつかつたそうだ。夏の大会を目前に控えて、部員全員の目つきが変わってきた。夏の大会に向って、全員が、一丸となったという感じである。やはり、この辺は、運動系クラブ、特に団体競技のよいところだと思ひ。話は元に戻るが、大手前はきびしい練習にもかかわらず、一回戦で敗退してしまつた。アホらしかつたが、来年こそは、という希望がわいてきた。

敗退してから、三年生は、現役を退いたが、一・二年生には、まだきびしい練習が待っていた。しかし、うれしいことに、僕は遂にレギュラーになつたのである。当時の部員は九人だったから、ごく当然のことなのである。また話は元に戻るが、夏休み中の練習は、ものごつついしんどかつた。まずキャッチボールが三〇分、もうこれでバテていた。それにまだバッティンク、ノック等があつた。それにもめげず、九人の部員

センパイへ サクラ サクコトラ ココロカラ イノル
コウハイヨリ

例によつて、諸君がオレと同じ学年もしくは、オレ以上の学年になつたならば許せないわ

は頑張った。練習をサボる者など全然いなかった。みんなの顔は、たくましく口焼けしていた。

しかし、野球ばかりしていた僕にとっては大変きついおこたばが出たのである。

だけどもあんまり成績さがると野球の練習はおあずけだよ。ララララララララ……

クラブに疲れ、家で寝てばかりしていた僕は、非常なショックを受けた。しかし、しよすがないので、勉強をやり出した。その結果なんとか、休憩は免れた。やる気さえあれば、いくら疲れていても、勉強はできるよである。

夏休みも終り、当然のこととして秋が来て、これまた当然のこととして冬が来、そして春が来た。この間あまり変わったことがなかったので、省略。

一年なんて直ぐたつものである。気がついていたら二年生になっていた。同時に新入生が入学して来た。どういうわけか、我クラブにも新入部員が入って来た。前年同様、一・二・三年生が夏の大会めざして一丸となった。練習は前年以上にきびしかった。それが競わされたのか、大会では三回戦で優勝校明星を最後まで苦しめて、惜敗するという結果となった。そして連盟か

ら表彰されるといふ、けっこうなおまけまでついた。だけども賞状もろうてからは三年生は離れて行ったのさ……

こういうふうにして僕らは再び、次の年の夏の大会めざして、夏休みの練習に入った。

サッカー部

樋渡 一輝



サッカーの体験について書いてくれと、文化部長に泣かれてたのまれたので、これを書くことにした。

なんととっても、思い出に残ったのは、夏の合宿だった。一年の夏、二年の夏と二回行ったが両方とも全然違っていたが非常によかった。一年の時は長野県篠ノ井に合宿をする。夜行で出発し、次の朝、国境の長いトンネルをぬけると、そこは信州だった。一日目、まったく、グタグタに疲れる。もう一人へたばった。グラウンドまで片道三キロほどを走っていく。練習は朝のロードワーク（千曲川まで走る）九時から三時間、三時から三時間で自由時間などない。二日目、クリヤ！

すばらしい未来に向つて巣立つて下さい。輝やかなしい栄光のもとへ。はばたけ、はばたけ！

卒業式で女の子が泣く。

あれは僕が悪いんです。

(ゴールに一人はいり、そこへボールをおもいきりなげる。ゴールにはいつたものは、それをゴールに入れまいよう体でとめ、遠くへけり出す)の時、五人目Wがはいったボールが顔にあたり鼻血がとびでた。しかしまだ終らない。他の者はみんな「フアイト・フアイト」と声をかけてやるだけ。やっと終わった。二・三人かけよってバケツに水をくんできて、顔を洗わす。

「次ノ」先輩のきびしい声がとぶ。
「休憩」三時間のうち一度だけ休みが五分ほどある。その時、急に一人が「痛い々々」と叫んだ。どきっとした。先生が二人すぐ医者へつれていく。命にはかわりなかつた。でも車がなかつたら。。。僕は早く合宿が終ってくれ。と願った。僕もたおれた。何回もはいた。次の日、又一人日射病でたおれ救急車がきた。もうまともなのはいない。食事も、口を通らない。最後の日の午後の練習で、これで最後だからというのでサツキツトをやる。ハードルが十個ならべてあり、それを両足そろえてとび、十往復し、鉄棒あり、かたぐるま、うでたてを三セットやれというのだ。みんな必死だ。三セット目の鉄棒の時、目の前がフラフラとして倒れた、身体じゅうしびれてきた。すぐ車で医者

「最初」ということは、不可能ということではない。



へはこばれた。注射を二・三本うたれた。過労と日射病からだ。そして合宿は終わった。非常にしんどかった。二年の合宿は、福井県三方五湖でやった。

こんどは楽でしかたがない。途中で一日休みがあったし、疲れてくると雨が降って暑さがとんでしまふ。盆おどりもいった。食事はいくらでも口にはいる。女の子の話はでる。夜ねる時は、みんな話している。去年とえらい違いだと思つた。しかしこんな合宿後、部員が四人ぬけた。二年の時は一人もぬけなかつた。しかし技術は進歩なし。帰ってから先生に、なんで倒れるくらい強くせえへんかつたんですか」と聞いたら「倒れたら、ええもんと違う」と怒られた。それもそうだが、今、思えば両方ともよかつた。一年のときは、しごかれ、しごかれ、二年の時は、遊んでしまつた。でもこんなことではいけない。新入生でサツカー部にはいる者がいたら、少々でくじけない根性をもって、自分にきびしく、自分を自分でしごく、くらいの部員になつて欲しい。

知識の池は広く掘り

知性の井戸は深くなれ

ある三年生より。



ラグビーをして



田中正和

桜の花のさき乱れる入学早々の頃、何のクラブに入
いろうかと迷っていた私の目に、ラグビー部の充実し
た練習ぶりが鮮やかに映った。翌日から私はラグビー
部員になった。まだ入学したてで何をすることも戸惑っ
ていた私に上級生はラグビーのことも学校生活のこと
も親切に教えてくださった。

練習を始めて二日目に硬式野球部のボールが私の頭
にあたった。それから私の成績は上がった。

一週間ほど練習に出ると友達もぼつぼつでき始めた。
その友達は二年たった今も変わらない。ラグビー部に
入って本当に良い友達が得られたと思う。

ギラギラした太陽がはだにやきつく夏休み、毎日苦
しい練習が続いた。そして初めての強化合宿。練習は
とてもつらかったが、練習の合間の自由時間は、み
んなでトランプをしたり、しよぎをさしたり、勉強
を教え合ったりして楽しく過ごした。ある日はがまんが

太ったブタになるよりは、やせたソクラテスになつて下さい。
でも、やせたソクラテスでは満足しないで下さい。そしてブタ
を可愛がつて下さい。

「怪物くん」の中のオオカミ男の「でガンス。」と
いうことばを流行させて、合宿の間じゅう「ガンス」
で日が明け「ガンス」で日が暮れた。帰途、津山駅で
列車を待っているとき駅員がマイクで「津山でガンス」
と放送していた。

九月に入って夕陽丘との定期戦に快勝して、三年生
は引退した。

冬休みは寒風の吹き抜ける大阪城グラウンドで毎日
寒さにチヂミ上がりながら練習した。

再び春が来た。その頃はもう私も選手として試合に
出場していた。春の国体予選、秋の全国大会予選とも
全大阪八三校中惜しくもベスト八で敗れ去った。戦績
は十一勝二敗。

これからも国体出場、全国大会出場をめざして私の
飽くなき努力は続くだろう。

友よ、この暗やみは本当に夜明け前のやみでしようか。
終ることがあるのでしようか。

このやみの中に、一生迷い込んでしまえよう。

桐の花に散る嵐、受けて立つのも我等の命

目におたけび、弁説ふるい、大手前の紋は行く。

バスケット部



佐野洋子

「とにかく運動部にはいろいろ」

そんな軽い気持ちで入ってしまったバスケット部。クラブで友をつくって、勉強と両立して・・・なんて、かわいい希望に胸ふくらむ入学当初だった。

こんなふうに、ただバスケットに青春のはけ口を求め、偶然に集った部員の中で、成績は下降線をたどるのみなれど、私のかわいい希望は芽を出し始めた。

大会があった、そしてスランプがあった。コーチにひっぱたかれ、涙でボールがくもる。仲間の、ブレイクのアドバイスにも、反抗の態度でしか答えることができない。「わかっている、わかっているんだけど……」

長すぎるスランプ、厳しい練習、その内にバスケットに対する、あれほどの情熱も薄らいでいった。そういう自分の気持ち、またなさけなかった。

ある日突然、足が軽くなる。スランプ脱出、この足でしか感じられない、この感激。

厳しい練習が続くうちに、メンバーが一人、二人や

先輩、合格されることを祈ります。

そして、よりよい大学形成に努められんことを望みます。

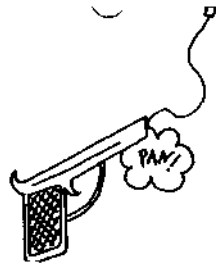
めていった。ショットは大きい。残るは八人、五対五も組めやしない。それ以上にくやしかった。友に裏切られたくやし涙が皆の目に流れた。心一つガツチリくんでたんじやなかったのか。そんなにもろいものだったのか。自分ひとりの空転を感じた。

それでも練習は続く。残った八人のスクラムは固いつらい練習に、共に声をかけ、苦しい試合に共に戦った者同士にだけ通じている一本の綱。

入学当初、芽ばえた私のかわいい希望も、ようやく実を結び始めたようである。

文化系

社会科学部 (社研)



社研の重要な特長は、我々の住んでいる社会の現実を見つめて考察することである。

社会の構造、形態なども対象となるが最も大切なのは社会の構成要素たる人間である。究極的には、根源的に人間を捉えていく上での思考過程。思考過程で必要な知識なども吸収していく。現在この世の大勢は、と

劣等生同盟より、優等生諸君へ。いつかはくじく、

その時には、おれをみない劣等生になれ、ならば世界はひらけよう。

かく深い思考が拒否されているのでは、なかるうか。あまりに既成の物に飲みこまれていなか、人間が動物から別離した唯一の武器、思惟を忘れては、人間が人間たり得るのか。

今こそこういう問題が考え直されてよい時期だと思ふのである。活動状況としては、社研機関誌「霧笛」を出したり、研究テーマを定めた研究会を開くこともある。

弁論部



諸君、入学おめでと。中学校三年間をそれぞれ有意義に自分の力を十分に發揮して来た諸君、今、君達は、この大手前高校という新しい世界に輝やかしき第一歩をふみ出そうとしている。諸君の先輩、といつても一・二年早く本校に入学できただけのことであるが、その時は今の君達と同じ気持ちを纏らせたものだった。今ほど、現実に満足し、未来にデッサン夢を駆させる機会は、滅多にないだろう。それが、青春の甘さなの

身体のビタミンは蒸屋で売っているが、心のビタミンは自分で作り、自分で飲まねばなりません。その原料は、それも自分で考えねばなりません。

かも知れぬ。これから三年間、諸君は、大手前生として立派に万事を行うだろう。学習にスポーツに興味にそして恋愛に。

しかし、これは学年が上がるにつれて体験することだが、諸君の直面する一番の問題は自己との戦いである。つまり、みにくい現実に妥協せねばならぬことへの嫌悪感と学習成績に満足できぬところからくる劣等感をどのように処理解決するかということである。弁論部の果たすべき役割りは、このような人に、少しでも助けとなるように提示することだ、と確信する。あるいは社会の中で個人の幸福を追求することだ。この目的で、弁論部は主に政治問題を扱い社研や報道を主とする新聞部と異なる。彼らに比較して弁論部は、倫理の軸で問題を考える点で地味な存在かも知れぬ。話のスケールが小さく見えるかも知れぬ。けれども我々は決して弁論部の可能性を諦めぬつもりである。

人生には大空がある。いつも青空とは限らぬ。
嵐も風も雨もある。だがそれにまけるな。
我らは若い。若さでつらぬけ。

涙と共にパンを食べた者でなければ
人生の味はわからないのだ。



新聞部



三段飛びで屋上へ。大阪城とは反対側、運動場のあ
るらしい方に歩いてもらうと、突き出た部分がありま
す。のぞいてみると、土曜日と水曜日には私がいるは
ずです。不思議なことに、ここが私たちのクラブ室で
その日は「新聞部」の活動日だから。

他のクラブの部屋に比べると、たいへん広いもので
階段のおどり場を改造したところです。しかし、利点
というとそれだけで、校舎中で最も高い所にあるため
ブツブツ不平を言いながら階段を登る次第です。

そして夏になると、窓ガラスが開かないのでその暑
いこと、窓ガラスを必死ではずすと、さすが涼しく
なり格好の見はらし台になってくれますが。主な飼育
環境はこんなところですが、決して「天文台」ではあ
りませんから、学校新聞を発行することを、第一目標に
しています。

私たち自身「学校新聞」ってのは一体どんなものだ
ろうかと考えている位で、技術的なことはほとんど関
係ありません。

求めるものは 外部にあらず 常により高い精神活動の内
それを求めよ

最善を尽くし 時機を待てば それは おのずから姿をあらはす

このところクラブ活動は低調で、かんばしくありませんが、自分たちの問題をいっしょに考えたいと思っ
ている人なら今すぐ部屋の方まで来てみて下さい。
現在、部員は十二名ですが、バラエティにあふれたお
もしろい人が集っています。これでおしまい。
なお、地上から来る場合は、物理教室の横の階段を
最後まで登ってみたら。

映 研



映研へ来る。君の人生に何か得るものがある
はずです。しかし他の運動クラブにも入りた
いと思っている人、君も、映研となら必ずうまくかけ
もちが出る。サッカーの技術上達だけでは何かもの
足りないはずです。美しい映画、劇的な映画、人生に
幸与える映画、それらを目ざして、映研は前進してい
ます。君も加わって下さい。そうすれば必ず映画のよ
さがわかるはずですよ。
そもそも、映画とは、テヘ、見て楽しかったらそれで

ねむたさを抑えて今日も学校へ

ガパンもつ手が重いと云つたー 赤ん部冬人

内容の九〇％が表わされる。元来日本に映画が入ってきた時も、珍しい外国の物が中心で、社会思想などとは無縁なものだった。だからそういったいみでも映画は理屈なく楽しめるものが一番、しかしその楽しさを作るくるしさはみる楽しさ以上に、君をきたえて、きつと、君なくば社会は変るといふ人物にしたててみせる。

君も映研へいらっしやい 目標二十人。

地 歴 部



現在の社会に起っている事を断片的に捕えていたのでは情勢判断は出来ない。過去の出来事を知ってはじめて、体系的に情勢判断ができる。だから地歴へはいりたまへ。

地歴の部屋は本館三階に位置している。その広さは大手前一である。部費は取るに足らぬ月に五〇円である。活動日は月水士である。

月に一度は見学会がある。観光コースを歩くこともあるが、多くの場合は森閑とした寺や史跡をたずねて

花の命は短かくて

苦しいことのみ多かりき

明日という日はきみの手で、切り開いて行かねばならないのです。

いる。

三年間を有意義にすごしたいと考えられる一年生けとるものも取り合へず、地歴へはいりたまへ。素晴しき事限りなし。具体的に何をするかは部屋へ来てくれれば。ソツト教えるよ。

学校には全く期待がないと思っっている一、二年生の人々、それは間違いだ、地歴があるではないか。現在部員数十。

理 研

我校文化系クラブの低調さは、いまや我校の伝統となろうとしている。そんな中において我が理研クラブは：：やはり同様であった。只今、部員二十数名、実質七、八名。(これでも文化系では多い方)だから、ここ数年来目立った活動は行われず、文化祭などでは「理研がよかった」と言ったのは、七・八名(理研部員)だけだったとか：：：。

それは、ともかく、入部すればわかることだが、理研ほど素晴らしい、楽しいクラブはない。てんびん卒

花も嵐もふみこえて行くが男の生きる道。

諸君、共にがんばろう。

のつもりで作られた、化学教室の片隅を本拠地として化学、物理教室等、手広いなわばりを持っている。

活動分野も「飲食物専門」から、火炎びんでも製作しようかと言うのまで集まった化学分野、人材は良いが装置が悪くって仕方がないと言う物理分野他、天文気象、地学等、生き物のない科学全般を活動範囲として岩石採集、流星観測等、校外活動も、盛んに行なっている。

「理研」おごりかな名前。しかも、化学・物理を習わないから、一年生に取って秘密が一ぱいのクラブ。でも、入ってみたら全く逆。気楽な庶民的な……と言うのがピタリするクラブ。

液体を混ぜ合わせて色の変わるのを見たいという色キチガイ。

理研に入って何か功績を残そうという方(そんなマジメな奴いないだろうけれど……)
誰でも、男女を問わず、気楽にどうぞ。

あーあ 高三なんて あっちゃいけ。

もう降参だーあ。なりたくないよ！

卒業生のみなさん、願わくば、もう一年

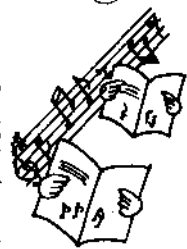
名誉ある大手前高校の高校三年であられんことを、

卒業を記念して申しあげます(まともにいくと次は高三になる

女の子より)



音楽部 (O M C)



数多い大手前の文化系クラブの中でも、我が音楽部 (Orchestra Music Club) ほど広くデラックスな部室を持っているクラブはありません。でっかいグランドピアノと、机が四つ、長椅子が一脚教えきれないほどぎょうさんを楽譜——信じられない人はクラブ長屋(本館三階)まで来て見てください。

練習は音楽教室で週三回(月・水・木)やっています。振り曲は混声四部合唱の曲で、レパートリーは広く、合唱組曲から、ポピュラー、フォークソング、日本民謡にまで及んでいます。練習方法としては、発声練習に特に力を入れ、無理なく最良の声が出るようにしています。だから、歌えば歌うほど声がよくなっていきます。

合唱というものは全員の心がひとつになってはじめてできるものです。日ごろ一生懸命に練習した曲を、文化祭やコンクールで、心をひとつにして歌い上げたときの感激は捨てがたいものです。いやなことがある

人生は航海にたとえられる。荒い海、静かな海

どちらを航海するかは君の自ゆうだ。しかし若いうちにやれ若さはすべてを可能にする。

書道部

書道部

っても、ひとたび音楽部室に足を踏み入れると、きれいなさっぱりと忘れてしまいます。歌を歌うということは、健康上、精神衛生上にもたいへんよろしい。ちよつとでも音楽に興味のある人は迷わず、今すぐ音楽部に入ろう！部費は一月わずか五十円。男前のにいちやん、きれいなねえちやんのいる音楽部にぜひ入ろう！

墨をする……単純なことだが、する人の気持ちをおちつかせる。そしてその漂う香りで、一日間の疲れをいやしてくれる。そこが好きだ。

わがクラブは、文化祭に初めて存在が認められるような地道なクラブである。しかし外見だけで決めてもらってはこまる。わがクラブの内面は、部員にしかわからないような暖かみのある、家庭的なものである。そのためか週四日（月・木は放課後、火・金は昼食み）間の練習においても、部員のわがままがとおされている傾向がある。しかし、する気になると、他の人にとっては、近よりにくくなる感じがするほど熱心である。

自分に与えられているものを最大限に利用すること
それが私達の課題ではないでしょうか

わがクラブの活動は字を書くだけではありません。他府県の旧跡をたずねて、拓本をしたり、大手前書道部OB会の人々とハイキングにいたりすることが、今年はやていされていきます。

新一年の諸君、新二年の諸君、部員皆あなたがいつ入部されても暖かく迎えますよ。でもやはり部員としては、文化祭までに入部されることを期待しております。

まよわず一度練習日に書道教室へお越し下さい。そこには、あなたを暖かくむかえてくれる仲間がいますよ。

文化系クラブにはいられるなら、真の友情がたかめられるわが書道部へ！

写真部



今日、カメラを持っている人はゴマンといます。しかし現像や焼付までしている人はそうザラにはないでしょう。フィルムも自分で入れられないような人がいるありさま。そのくせカメラだけ高級なのを持ち歩いているよりなおるものがはんらんしている時代です。

さよならは別れの言葉ではない。
それは出発の言葉です。さよならの総括

こんなことではこれからの時代にとり残されてしま
います。第一、カメラがもったいない。それに本当の
写真のおもしろさというのが理解できない。自分で写し
たフィルムを現像タンクから出した時、焼付がすんで
現像液の中で像が現われてきた時の感激というのは写
真をやる者しかわからないものです。それは、まったく
現代のさわがしさとはかけはなれた世界です。

その世界への一番の近道、それが写真部です。カメ
ラ一台あれば部員としての資格は十分。平素はまった
くの自由活動、好きなきに好きなことをやればよい。
ただし、校内の行事、たとえば、体育祭、文化祭、球
技大会などの時は、クラブのために働いてくれればよ
いのです。
要するに、本校で最も自由に自分のやりたいことを
やれるのが写真部です。

放 送 部

では、我々放送部の紹介をしましょう。名称は「*College
Broadcast Club*」(略してOBCラジオ大阪ではあ

大相模を見て、玉乃島のようにねばり強く栃東のように頭を
使い陸奥嵐のようにごう快に生きていき最後に○○のように
「ぶさいく」にはならないようにしよう。

りません。)部室は食堂のすぐ近く わからなければ
ば、誰かにたずねて下さい。活動は……卒直に申しま
す。只今、部員女子二人で、これという活動も出来ず
私達も三年生になり、クラブは危機の状態にあります。
新入生の皆さんはもろん二年生、三年生の皆さんも
機械に音楽に、アナウンスに興味ある方、どうぞ入部
して下さい。今の放送部というと、体育大会、文化祭
北野交歓会で、司会、効果などの役があてられますの
で、奉仕クラブの様になっています。本来の我々独自
の活動もどんどんやっています。本来の我々独自
電気、機械、録音の技術、アナウンスの勉強も、そし
てレコードを用いて音楽を鑑賞することも……
さあ皆さん、放送部へ //

ESS

文化クラブ随一の部員数とにぎやかさ、そして内容
のこいさを誇るこのクラブ。活動日は火・木・土です
が、その他の日でも昼休みでも、授業中以外はいつで

人生は短いので

小さなことに

くよくよしてられない。

も活動しています。とにかく alpha-pet がこの世に存在する限り、Discussion の相手がいる限り活動は続いているんですから。

現在はラジオの英会話、アメリカ国語教本を主に、テープやレコード、発音練習の本を使用しています。毎年一回（一年生は二回）の oratorical contest

では、自分で原稿を作りスピーチするだけの英語力があるのに気づくはず。そして、文化祭の展示や英語劇を通じて、ごく自然に英語の source を身につけることもできます。特に英語劇の「むずかしい」はずのセリフがわかったような気がするのも「生きた英語」を知っているからでしょう。（ちなみに昨年の「WINTER」

「FAIR」では、一般生徒には「What's the matter with him」しかわからなかったとか！）教科書や参考書に書かれているのだけが英語ではありません。

Summer Camp Christmas Party

などの楽しい行事や部室での交流から、学年や組を越えた友達を得ることもむろん可能！ロマンスを期待して下さっても結構。自分がやりたい英語、見るのもしゃだと思ってる英語、見知らぬ外人（ただし英語をしゃべれる外人に限る）と楽しく語らう英語 I E S S

来年が山ですね



にはどんな英語でもあふれています。音楽室の、近くまで来てごらん下さい。笑い声かきこえます。(s)と(f)を練習する声かきこえます。フオークソングがきこえます。討論する声かきこえます。あなたの努力！それだけで、E S S はどのようにも形を変えることができます。

通信研究部



このいかめしい名称は、何を隠そう。趣味の王様といわれている「アマチュア無線」のクラブのことであります。毎年新入生に対し、消極的に入部を募っていただきましたので、目下、クラブ員は総勢（？）四名の実にコンパクトなクラブであります。

アマチュア無線といいますが、難しい国家試験を思い浮べる人も多いと思いますが、さにあらず、記憶力のない人以外は誰でもできるのです。特に一夜漬けの能力の持ち主には最適です。（なにを隠そう著者こそその人です。）それに免許は一生有効です。

今年、積極的に入部者を募るため、最新式送信機

我が生命の燃えつきし。無情の人と虚偽の人。

その中に我が生命は燃えつきし

私は悪と偽善の海に、その身を沈めん

真白き泡の。瞬時に消えにし

(T S S I O) を確保し、クラブの躍進を目ざしています。

とにかく、何となくやってみたい人(もちろん女性も含まれます)も、ライセンス保持者も、ひまを持ってあましている人も、みんな、みんな、いらっしやい。

(D E J A S Y I Z)

生物部



我々は生きている。すなわち、生物なのです。

大きな目を見ひらいて、あたりを見回してごらん。このきたない大阪の街角にも、「ホラ、君の足元にも何かが動いている。生きている。この生物の神秘を少しでも探りたいなあ、と思う人は、さっそく我が生物部へ入部していただきたい。」

では簡単な紹介をしておきます。

部室：本館三階(入口にカエルがおいでである)

活動：(1) 研究は、各自が各々の研究課題を持って自由研究を行なうことを中心とする。

(2) 合宿、こいつは「モーレッツ」に楽しい。

人生は賭け

悔いのないかけを

海に潜ったり、魚をつったり、ボートで遊んだり、でもちやんと研究もやります。

例えば、ウニの人工単為発生の実験、いろんな動物・植物の採集などです。

(3) 文化祭参加、一つの教室をかりきって展示、実験を行なう。中でもカエルの心臓還流実験

この時は外科医にでもなったような気持がして緊張するヨーン。

(4) 機関誌「Cells」の発行

他校との交流

以上のような半です。

もう一度お願いします。生物の神秘を知りたい人、一度はこの部室へおいで下さい。

カエルといつしよにマツテマス。

人間にとつて最も悲しむべきことは、その肉体に意志が存在しなくなることである。その存在を意志にかけてみることは失われた人間性の復活に不可欠である。

後登諸君 高校生活をくいのないすばらしいものにしーやある者は、勉強を最良の友として、他の者は異性との淡い語らいで高校生活を送るものもあるやろね。では12年後XX予備校であおうね。

すぷりんとぐてなあに

四月の中頃、久しぶりにスモッグのない空には大きな太陽がうれしそうに輝いています。大手前高校の庭では赤や黄色の派手な花をつけたチューリップが、太陽の暖かい光を全身に浴びながら大きく背のびをしています。そばのベンチでは、チューリップを見ながら新入生の花子さんと三年生の太郎君が話をしています。

「ねえ太郎さん、このあいだ『スプリング』っていう本をもらったけど、あの本はいったい何なの。」

「うんそうだねエ。『スプリング』っていうのはねえ太郎君は答につまって、しばらく考えてしまいました。チューリップが太郎君をほげます。」

「スプリング」というのはねえ。僕達自身の手によってつくる雑誌なんだ。」

「へエー。そうするとあんな本をつくるのに先生は何にもおっしゃらないわけ？」

「そりやー。ここはこうした方がよいよ。『ぐらいの助言はしてもらうさ。でも僕達が企画して作るのさ』。『やっぱり高校って中学校とはちがうのね。』」

花子さんはしきりに感心しています。

「でも何のためにそんな本、つくるの？」

「うん。高校時代というのはね、難しい勉強するのも大事だけれど、人格を形成するのも大事な時期なんだ。尤も最近はおっちょこちの高校で、そんな教育をしていないとって紛争しているようだけれどもね。

人間を豊かにするには、たくさんの本を読んだり、たくさん人の話を聞いたり、

する必要があるんだよ。でも僕たちが話をするのは、クラスの中の人達か、そうでなかったら十人程の他の

クラスの人だけだろ。」

「でもそのためにクラブやグループ活動があるんですよ。」

「それでは全く知らない人の話や意見は聞けないじゃないか。」太郎君はつづけます。

「それにね。高校時代にはいろいろを悩みごともたくさんあるんだ。それは高校時代というものが、子供から大人への中段階にあるから当然のことなんだけど

もね。例えば、もちろん勉強の悩みもあるだろうけど

その他にも長い人生に対する悩みや、日本の政治を心配したり、それに恋愛についての悩みなどがね。」
「ふーん。高校生にもなると、恋の悩みも生まれるのね。」

「そう言いながら花子さんがチューリップの花壇ごしに向かい側のベンチを見ると、そこには小さな恋人たちが、小さな二人だけの世界をつくっていました。」

「でも太郎さん。」

「それまでおとなしくうなずいていた花子さんは、急遽反撃に転じました。」

「この前もらった「スプリング」には、確かに他の人達の考え方やなんか書いてあったけど、それ以上にふざけたことや、おもしろい記事も多かったわ。」

「うーん。今まで僕が言ったのは、理想なんだ。それに本来の目的は、僕が言ったことだろうと思うけど、実際は君のいうとおり、そうとうおもしろいことや、馬鹿げたことも多いんだよ。でも僕たちはむしろそれでいいと思っただけで、いたんだ。全校の生徒があれを読むことによって、みんなに共通の話題ができるし、みんなに共通の笑いが生まれて、少しでも楽しくなればそれでいいと思っただけ。つまり「心の広場」なんだよ。」

「ふーん。「心の広場」。いい言葉ね。」

「花子さんは、これからの三年間の高校生活がとても楽しいものに見えてきました。(チャイトやオリジナルでさんざん苦しめられるとも知らず)」

「さっき「スプリング」はみんなで作るんだって聞いたけど、あの本には、とても全校生徒の文は載ってなかったわ。そうすると記事を書いたのは一部の人しかいないわけね。それならば、みんなの意見やなんかは載らないわけだから、本当の「心の広場」になっただけじゃないかな。」

「花子さんは、痛いところを突きます。」

「うーん。これは痛いところを突かれたなア。確かに記事を書いているのは、ごくわずかなんだ。でもアンケートをとったり、「卒業生を送る言葉」「在校生へ残す言葉」なんかを載せているから、ごく一部の人達だけで作っているとは言えないと思うんだ。」

「ふーん。そうなの。」花子さんはうなずきました。「僕も「スプリング」の編集委員の一員だったから知っているんだけど、「スプリング」っていうのは、各クラスの文化委員から成っている文化部会で作るんだよ。本来なら、「スプリング」を作るために、各文化委員は、文化部会で決まった方針に基いて、クラスの人みんなにスプリングの記事を募るのが本当だと思うんだ。けれども実際は、記事を出してくれる人は少いんだよ。それにもっと悪いことには、おのこの文化委員にやる気がないんだ。だから三学期になっていよいよ本格的に「スプリング」を作ろうとして文化部会を開いても、集まりは悪いし、結局は文化部長が一人で働いて、実際に記事を書く人もごくわずかになっ

てしまうんだ。こんな状態がこと数年つづいているか

ら、内容はかなり悪くなっていると思うんだ。でも来年は君たちが参加するんだからがんばってもらわなくては……。」

「なかなか大変な仕事をのね。でもそれだけ困難な仕事なんだから、後が楽しいんじゃないかしら。」
「他の人にはそうかもしれないけれど、やっぱり僕には苦しかったよ。」

二人は楽しそうに笑いました。
四月の中ごろ、大手前高校の中庭です。
空には大きな太陽が、二人を見つめていました。

スプリング

この本の名前、「スプリング」。どこからこんな題がついたのでしょう。おそらくこれは英語でしょう。なぜなら、僕たちは日本語と英語以外、フランス語もドイツ語も、スペイン語も、ポルトガル語も、イタリア語も、ラテン語も、ましてやエチオピア語も知らないでしょうから。(一部には、中国語に精通している人もいます。) (一)

それでは英語辞典で、*Spring* の項を引いてみましょう。

どうやらこのスプリングの意味は、動詞の「飛ぶ」「はねる」名詞の「バネ」「青春期」に關係がありそうです。

想像するに、これは一青春期にある我々がこの「ス

プリング」をバネにして、飛びはねる。」ということの意味するのではないのでしょうか。

- Spring 動
- | | | |
|---|--------|---------|
| 1 | 飛ぶ | はねる・はじく |
| 2 | 飛ばす | はね返らせる |
| 3 | 飛ぶように | 突然……する |
| 4 | 源を發する | |
| 6 | 急に持ち出す | |
- 一名
- | | | |
|---|------|------|
| 1 | 飛ぶこと | 躍動 |
| 2 | ばね | ぜんまい |
| 3 | 反動 | |
| 4 | 泉 | |
| 5 | 春 | |
| 6 | 初期 | 青春期 |

(研究社 高校英和辞典より)

と書いていた矢先、十年前の「スプリング第一号」が手に入りました。(この第一号、大手前高校内にはおそらく五部もないでしょう。なにしろ図書館にも保存されていないほどですから。この本、趣味の人達の間では、十萬円で売買されているとか、いないとか。この第一号の編纂後記に、こんな文章があります。

~~~~~  
そしてこの雑誌がその題目 *SPRING* のとうりに、「春」のように生々とした「泉」のごとく新鮮で「躍動」のように力強いものとなることを願う。

多少、僕の解釈とは異なりましたが、この創刊号当

時の精神を今一度、スプリング編集に携わっている人達に、思い出してほしいと思います。なぜなら最近のスプリングは、あんまりにもマンネリ化して、新鮮味が無いからです。

といっても「スプリング」はやっぱり、僕達大手前生の「心の広場」なのです。スプリングをスプリングしてスプリングしよう。

# ガスストーブ時代もさる



「42-423」コレナーニヤ。

お年玉年賀ハガキの当選番号？ いやいや、これこそこのたび、大手前全館に設置されたガスストーブの正式名。俗称「ガス赤外線ストーブ」

ガスストーブ、ああ何という暖かな音の響き、我々を誘うその美しい形。(コレウソ)重い石炭バケツを持って長い階段を登り、マッチを求めて組から組へ放浪した昔が夢のようである。今では元栓を開いてツマミをよっと回せばよいのだから。もともと、石炭ストーブに火をつけることだけに生きがいを感じていた「職人気質」には、いささか物足りないかも知れない。

これを機会に、このストーブについての正しい知識を学ぼう。以下は「ガス赤外線ストーブご使用方法」か

らの抜粋である。

。特長 △すばらしい暖房、△最高の熱効率、△乾電池もマッチもいらぬパーフェクト点火！これらのことは多分に宣伝が含まれている。

、各部の名称！これらは覚える必要はない

。使用上の注意事項

△火花の出る部分にはさわらぬこと(火花の出る先端に手をふれたまま、コックツマミを操作すると電気ショックを受ける) △ガスストーブは部屋の空気を乾燥させないから、水の入ったヤカン、洗面器具を乗せないこと！これは保健科の先生とは意見がくい違っている。

し手入れのしかた △ケース本体や反射板等、塗装やメッキを施している部分は乾いた布でよくふくこと。 △天板などホローを施している部分は湿った布でよくふくこと！特に○を焼いた後は。

ガスストーブについての正しい知識はこれで一応ついたわけであるが(？)万一火が消えてガスが出っぱなしのときはどうするか。

ガス中毒を防ぐに一番大切なのは、まずガスを吸い込まないことである（真理ノ）吸い込まないためにはどうするか？ ガスが出ていなければいいのである。つまり元栓がしまっていればガス中毒にはかからない。「紅」の炎をあげて（チョットオーバー）燃えるストーブ。我々は、その暖かさの故に、休み時間はそのまわりで世間話に花をさかせ、授業中は、カゼをひく心配もなしに安心して寝られるわけであるが、ここでストーブをただ単に、からだを暖める手段にのみ用いるのは、あまりにも芸がない。というので、一年の某クラスにおいて、ストーブ各種利用法なるものを募ってみた。出るの出るわ、アツと驚くナントやら、ストーブにはこうも多くの使い道があるのだろうか。

△ストーブ各種利用法（先生にはナイショ）

- 一、モチを焼く（ごく平凡）
- 二、金魚鉢をのせて、熱帯魚を飼う（或るマニア）
- 三、靴下を干す（キタナイナ）
- 四、集って話をする（言うことなし）
- 五、人間の排気ガスを利用する（？）
- 六、シーズンオフの野球選手を呼んでストーブリーグをやる。
- 七、ストーブの上にストーブをのせて燃やす（よって熱量は二倍に？）
- 八、夏は水道の水を通して噴水にする。
- 九、バケツに水をくんでのせておき、掃除のとき利用する（マジメヤナ）

十、ストーブにだけ暖かいめをさせないで寒いところへやる（コレナンヤ）

十一、へやを暖める（そんな使い方もあつたのか？）

十二、大きな袋を持って来て熱風を詰め込み、家へ持って帰って家を暖める。（親こうこうヤナア）

十三、ストーブだけにガスをやらずに、一人一人ホース

をくわえてガスを吸い、火をつけて暖まる（死ヌガナノ）

十四、ドラムかんを持ってきて湯をわかし、男女〇〇する。（今年の一年、ヤラシー）

十五、ハワイへ持って行って売る。

バカバカしい。どうやら今年の一年も、大手前生の長年の伝統を受け継いだようだ。

ふるい、ボロイ大手前に遂にやって来た、ガスストーブ時代。これは何を意味するのか？ 俗世間に吹き荒れている技術革新、企業合理化の風が、遂に象牙の塔にまで及んだか、などと考えずともよるしい。つまりこれは要するに：：諸君の御想像におまかせする。我々はガスストーブを入れてくれた学校の好意に応えて（？）あらゆる方面において、大手前黄金時代更には大手前白金（プラチナ）時代を築こうではないか。（カツコイイノ）

尚、余白は寄せ書き等に利用しよう。

## 業 事 紹 介



### 一学期

△入学試験▽：よかったですね。おめでと。

△入学式▽：講堂が小さくて暗くて、さぞガツカリしたでしょう。しかし伝統（電燈）はあ  
るのですよ。

△自治会紹介▽：訳の分からない事を言う者が出て来ても、気にしない。

△クラブ紹介▽：慎重に選んで、途中でやめられることのないように注意！

△自治会役員選挙▽：立候補が少ないのは粒よりの証拠？

△生徒総会▽：一時間ガマンして座っていて下さい。二・三年のことは気にしない。

△校外教授▽：自分達ちが考えて行けるんです。費用も考えて慎重に！

△中間考査▽：新学年最初のテスト・皆百点をとろうと頑張るのだが：

△対北野交歓▽：大手前と北野との二校に分かれて、バレーボール等の交歓試合。大手前の名譽  
にかけてハッスルしよう。

△自治会祭▽：仮装行列やクラス展示等の言わばお祭り

毎年この時期には、自治会祭、文化祭問題でもめる。

△期末考査▽：これで一学期の成績が出る。中間の悪かった人はガンバッテ！

△一年水泳訓練▽：服部プールでの体育の先生方総出の大訓練。サテサテ成果は：

m l は、

魚でないという声もチラホラ

△課外授業▽：高校へきて、夏休みが増えたと思えば、大マチガイ。七月八月の終りに、締め

て二週間あります。

△夏山登山▽：俗世間を離れて山男の心を分かってくれ。

△臨海学舎▽：去年は小豆島、青い海、青い空が目にしみる。空気がうまい

### 二学期

△校内水泳大会▽：二日間にわたる力泳、だが見ている方はひどい。立ち見席の床板は穴だらけ。



## 先生紹介



小松素彦先生

まず学校へ一歩足を踏み入れて、いかにも行動的で積極的で、やさしいおもぎし(?)の先生(ちっとも先生らしくないけど)が目に入ったら、それは大体小松素彦先生であると思っでさしつかえない。ことばが生徒に伝わらないことが先生の自慢の一つであるが、先生が伝わらないと思っっておられる言葉は通じるのであって、標準語でしゃべっておられるつもりが、私たちには少しもわからず、笑顔でごまかすこともしばしば。その本心がどこにあるかわからないという世評もなきにしもあらず。八組の女生徒たちのいわく。

「私たちは(じゅん)情派、先生は矛(じゅん)派」  
ある先生

「よう、やっとりませなあ」  
こう書くといかにもゴツイ先生のように思われるのではないかと心配である。そんなことはない。他にもいろいろ悪いところがあって(アツまちがった)よいところがあって、その一つは大変生徒思いであられることだ。八組の男生徒は、「モンスターズ」が「八組男子」といわれるくらい顔に自信をもっており先生も

つきあっておられるのである。ああこのうるわしき師弟愛。とにかく、コマツ先生はいいよ。



須崎先生

須崎とは何ぞ。コンピュータのごとく計算を間違え、顔を赤くして

「おれの中学の頃は……」。

トが一つありそりで、スタイル、顔、髪、髪型には関係はないようだ。我々が、取っ付きやすい理由は、どことなく庶民的な感じがするところでもある。授業中のあの目つきは、我々が疑問にぶっかかり、発作的な歓喜をあげるのを楽しんでるようで、非常にやりにくい。不規則的な指令の仕方は、我々にとって、少々心細い。幾何の場面では、実力発揮。

「なんとかすれば出来るが、どうしたら簡単にできるか。こういう時は、ヒントを見よう。」と、先頭に立って裏を御覧になる。

長所は、割合親切に教えてくれるところか。数学の虫というわけでもなく、冗談らしきものもおっしゃる。

短所は、わからない場合も、すなおに引き下らせてくれないで、なんだかんだと、かみ砕いて、質問を浴びせること。いや、これは長所かも?

結局、割合、平民先生という感じでいいと思うよ。最後に、定期テストの問題をもっと程度を下げるよう



密かに望んでおります。

### 鈴木朗夫先生

鈴木朗夫、俗名ホガオ、本籍不明、職業コンボジションの教師、その性格の温和なことを、この世に比類を見ない生徒好みの教師である。

だけで、心が浮き浮きして

る。

鈴木先生とは、ほがらか夫

と書くのね。

それでもときどき、怒ること

もあるのね。

授業中はいつもニコニコ、こ

ちらまで楽し

くなる。

この学校最大の日本語を大変うまく話す英語の教師である。

ある日の授業のようすを少し述べよう。例の如く、

前々月の復習より始まる。即ち、

「本閉じて。」の一声により、最前列の者を除いて、

一斉に本を開くは、いとをかし。先生それを知ってか

知らないでか、何もおっしやらない。性格丸出しである。

でもただ一度、おなかをお立ってになつたことがござ

います。即ち、我々が会長があとモチを持って来て

男子数人を率いてストーブでモチを焼いてた時でござ

います。(但し筆者も含む)授業開始のベルが鳴りま

したが、次が と知っている我々は動きません。

ところが先生が教壇に立つや否や( )

(ある程度は勉強している)「だれやノ」てつきり

着めて戴けると思っていた我々には、いささかシヨツ



名前を聞いた

クでございました。支離激裂ではございますが、なに

せ の授業中のことですので、お許しの程を。

最後に鈴木先生を一口で言うと、明るう、快活、日

本一の英語教師である。

これだけ誉めたら、英語満点つけてもらわないと、

割が合わないなあ。

### 浜田先生

「最も偉大な高校教師ノ」これは以下に話しをしよう

とする浜田先生のアリのママを表わした言葉である。

そもそも、浜田先生の良さというのには、一見してわ

かる。しかし、その良さは、高校の教師より大学教授

としての方がびつたりしているのではないか。それを決

定づけているのはなんと頭である。実にすば

らしい頭の持ち主である。その大きさは賢さを象徴し

ているし、非常によい形をしている。外形的なものだ

けでなく、中身がこいからネー。芸術品に値するはげ

具合である。この良さは、実際に見た人のみしかわか

らない。特に拙文でこれを表現するのは、とうてい不

可能だ。

浜田先生は実に英語がうまい。去年の六月にアメリ

カの高校生が我々のクラスでいっしよに授業をうけた

ことがある。英語オンリーのプリント、これには実際

さじきにいうよりなものだった。

概して言うならば、先生のユーモアは、常に授業と

密着している。しかし、ウイットの貧弱さはスーパーマン先生には少々似つかわしくない。あえて、先生の短所を挙げれば、この点が短所らしきものになるのではないだろうか。

しかしながら、去年の文化祭に関する全校投票が多数の生徒に妨害された時の処理は、実にすばらしい。暴力否定、話し合いによる解決の見本ではなかっただろうか。更に、その時に、血走っている生徒同志のいざこざすら起こらなかったのは、これを紛争校の学長に見せてあげたかった程である。

最後に、浜田先生とは、「最も偉大な高校教師」であることを再確認する。



平口先生

パタパタとスリッパを引きずるように歩いていく少し頭の毛のうすい中年の先生を君は見たことがあるだろうか。そうそれが平口先生なのである。それから、かもし出されるあの一種虚無感というか孤独感が先生を遠在のように感じさせるけれど、本当はとんでも生徒思いのやさしい、淋しがりやの先生なのである。今年も又文化祭や修学旅行の時カメラを肩から下げた先生の姿に君は出会うことだろう。



平田先生

平田先生を始めて見たとき、私はその感動が今も忘れられない。「大手前にあんなハンサムな先生いたかな。」というの、ちよっとオーバーだけど、老先生（失礼ノ）が大多数をしめている中で、彼はすこぶる若い。一躍女生徒のあこがれの的？になっただ次第であ

わが三年一組の担任、松本次郎先生は、教鞭歴三十余年（ヨイヤルノ）数学の神様であり、仏様だ。その豊富な経験をもってすれば、どんな問題も、熔鉱炉の雪である。（いい）「次郎ちゃん」の愛称で女子に特に人気がある。好しん士？である。一見厳格そうだが、「モウ、ヨロシイノ」とか「こんなに熱弁をふるっているのにノ」とかいう皮肉たっぷりなあの独特の口調がでるや否や、教室全体のふん囲気はぱっと明るくなる。授業中、解答もせずに「こんなにしてこんなしてこないやったらできまーす。何か質問？」とくるのには閉口するが、私達にはすこぶる親近感が感じられる。これも先生が、リアリストだからであろう。先生の機嫌のいい時には、必ずお孫さんの話かとび出す。今からもうお孫さんに数学を教えておられるそう。な。「次郎三世」の出現も間近いことであろう。そんなお孫さんと接している為に、松本先生は若さと美ぼなどを誇る永遠の青年である。



松本先生

授業中は、みんなが目をつむって聞いている中で、一人しゃべられ、黒板にたいへん個性的な字を書かれる。また彼はたいへん博学ではあるが、某クラスノ某氏の質問には、いつもたじたじの様子。それで、大手前生の博学に恐れをなしてか最前列にすわっている諸君に、何か言った後いつも同意を求められる。そうしてもらいたくて前の席に行く女子もいるとかいううわさもチラホラ。

講師にしておくのは、ほんとうに惜しい先生である。授業中絶対に当てたりしないからね。それから、先生の多い中で彼のような若くてハンサムな先生はもったもったと必要だと思う。もちろん、若くて美人な先生もダヨーン。

#### 小野先生

小野先生を知るには、徹底した分析と、綿密な観察を要する、その分析結果をここに著わすことにする。生物的分析

学名 ガストリンボドブネズミ

通常、数学部落の口当りのいいところに生息するが、日に数度、我クラスをうろつく(予習のしてない生徒は危



険)。雑食であるが、格別植物性タンパクとして、通知表、アチーブを好む。主食はできの悪い生徒が主であるがアルコールも可成やり、ブランドーから癖ちゆ

うまで一手に流し込む性質がみられる。通称ドロクノ紹介さん。しかし狂暴性はなく、温和な心暖まる受業は定評。

#### 化学的分析

加熱してもあまり反応しない。が学級の空気によく解け溶解度は高い。常温でオリジナルと反応してオヤリクダサイという奇語を発する。

#### 物理的分析

外部の物理的圧力(他の先生に早くテスト範囲まで進んでくれと催促されること)にも影響なく、常に他の学級のドンジリを独走する。全校公認の遅さを誇っている英語科平先生と五分を行く。硬度からみて、師の頭は二年前のノアイヤーストームで十五円の子り硬いことが判明している。かなりの石頭であるから気をつけること。

#### その他

師は京大在学中より、スキーでは頭角を表わし、現在我三本の指にはいっている。父登山においては、右に出るものなく、一升瓶かついで、日本中の山を歩きまわり、漫遊記は、授業のあいまの快い刺激となる。又毘基においても、かなりな線まで到達しておられる。けれど何と云っても数学こそ他の何よりもまさるものである。論より証拠一度授業をうければ、二度とは忘れえないものになることうけあい。

\*\*\*\*  
意 見  
\*\*\*\*

## その一 私と倫社

佐藤 雅司

我々二年生は、この一年間に「倫社」の授業は、実質的には一時間も受けなかった。ただ、単位を取る為に、期末テストが行なわれただけであつた。

二年生のはじめに「歴史の時間が足りないから」「倫社の教師がいないから」という、単純至極な、一方的な理由により「倫社」は完全に廃止されたのだつた。一昨年までは週二時間だつたのが、去年は週一時間となり、その兆候は見えていたのだが……

ところが、倫社廃止の二つの理由は、作られた理由にすぎないようだ。

まず、「歴史の時間が少ない」というのは、必ずしも歴史科の教師すべてに該当するものではないし、歴史史の穴埋めを倫社に持ってくるとは、もつてのほかである。

「倫社の教師がいない」というのも、講師を依頼しようと思えばできたらしい。それができなかつたのは「年度初めに忙しくて忘れていた」「家庭科の新任の教師の方へ予算が削られて、倫社の講師まで手がまわらなかつた」からであり、それは教務の失策を認めてゐる。そして「社会科学の教師が、倫社を教えてくれるはずだつた。」と主張する。ところが、現実には、倫社

は、授業として存在してないのである。こう考えると、倫社の講師を頼むことができなかったのではなく頼まなかつたのではないかと疑わざるを得なくなるのである。

結局、倫社がなくなつたのは「大学入試に直接関係しない」からではなからうか。しかし「倫社をすくらないなら歴史を」と、考えられるのは、無理のないことかもしれない。現状が大学入試一辺倒の高校教育であるから……

しかし、高校教育の本質を考える時、倫社の授業を受けられない事は、我々にとって大いなる損失ではな

いだろうか。  
ところで、この「倫社の授業がない」と、言う問題は、今年だけでなく、来年も二年後にも影響するのであり、全生徒に関係する問題である。だから、我々自身が、この問題に積極的に取り組み、我々自身で解決しなければならぬのである。

## 自治への意識

佐伯隆三

私達は個々の自治会会員ではあるが、はたして自治することへの意識をもっているだろうか。決して外的状況に屈服した一般会員が自治会は必要でないといっている、というのではない。そのような条件の中で自治会はいかにあるべきかを問うているのだ。ただしそれは運動の複雑化という技巧的なことだけで解答されることではなく、むしろ私達の個々の意識によって解決されるのである。つまり私達が自治会参加にあたって、いかなる方向性をもっているかなのであって、そのためには今の自治会情況の把握が必要だということなのである。なぜなら、その方向性はすべて現状の止揚を目指し、のりこえるものであるからだ。

自治会運動の止揚は盛んに叫ばれている。が、それを現状維持の中で行なうなら、何の変化もない。つまり今の自治会組織を例にとっても、その会則の一条一条から考えなおすという根底的改革の必要がある。会則は何が何でも守らなければならぬといっているのはダメ。それは意識としてのみ存続している自治会運場理論つまり自治会民主主義論が今や我々にとつていかなる価値をもたないからである。今の自治会運動の欠落点、矛盾点等をよく見ろ、それらを生みだし

たものはだれか。一つは個々の会員の倒錯した意識で一つは会員と遊離したその体制である。会員の意識は現在の自治会内においては、自治会運動体制の止揚によって止揚される。だから自治会民主主義体制を根本的に考える必要がある。

そして、それは現在の政治社会的情況の中にあり、会員の意識において、そのことが具象化されている。だから社会、政治と自治会をきりはなすことはできない。換言すると私達の社会的存在から由来してくる学校生活での問題や高校生という社会的存立基盤によって認識されうる問題等に私達が主体的にかかりうる必然性が高校生の国家社会的価値から見いだされる以上、自治会においてもそれが問題とされる必要がある。つまり、優勝カップをやるとかやらないとかいう問題は自治会全体として取りあげるものとしては適さないということがある。なぜなら、その問題が日常生活における個々の会員にとっては意識しえない問題であり、大会を直接に運営していく者にとってのみ問題だということである。重要なのは、学内生活での技術的問題を主体的に処理していくのが自治会なのか、それとも私達の高校生としての、社会的規制をうけた日常生活での存在価値を問うような問題を考えていき自己を獲得し存在を主張していくというのが自治会なのか、ということである。現状が前者であり、会員が現段階的自治会に対して自治会の必要性を感じえず、その要因が現状での

自治会の誤った自治観念や社会的情況への埋没、政治的な教育の歪曲化等にあるということからして、私達の生活次元での自治会、自治意識は後者であると考へる。よって私達は社会、学内における存在を問うために、実際確立するために自治という行為を必要とし、その活動の次元として自治会を考え、現段階的自治会の止揚の実踐化を求めるのである。

## 卒業式について

森 口 芳 樹

卒業式について、学年代表としての自分の態度を今まで明らかにしなかつたことを、先ず卒直に自己批判したい。

卒業式に対する方針がなかつたというわけではない。ただその方針を明らかにすることに疑問を持っていた。つまり卒業式がそれほど現在の高校生活の中で重要な位置を占めているのか。卒業式を通じて現在の高校生活を、そして現在の高校教育をも、僕達が協力して問題にしていくことが果たしてできるのか。卒業式を僕達が協力して作り出すとはどういうことなのか。

その協力とは単なる人間の集合に過ぎないだろう。卒業式問題について僕達が互いに結びつく必然性があるのか。

例えば、何らかの僕達に対する直接的攻撃に対して

その攻撃を起点として、直接に互に結びつくことができる。ところが卒業式問題に於いて僕達が結びつく起点となるものが存在するのか。結びつく起点もないのに、強引に僕達を結びつけたところで、それは何の意味もない、余りにも空しいものとなるだろう。

ここから学年全体で協力して卒業式を改革するなり今のままにとどめて置くなりに疑問を持つていたのである。

しかし結びつく必然性がないことをいくら嘆いてみたところで何にもならない。現実に卒業式が差し迫っている以上、それを避けて通るわけにはいかない。それに対し明確な態度を明らかにすることが必要である。

僕達が直接に結びつく起点がない以上、それを作り出すしかない。つまり自分と他人との間の接点を問題とする中から、自分と他人とが協力する必然性を見い出すことである。

このことは、自分を徹底して孤立化させる中からしかありえない。他人との切ることができない。をできる限り切っていくことにしかありえない。このことを卒業式の間で行うしかない。つまり卒業式に対し、自分が徹底して自己主張し、行動することである。誰に遠慮することなく。

従って答辭を自分で読みたい奴は、自分で読んだらいいじゃないか。校長に替って卒業証書を渡したい奴は、そうしたらいいじゃないか。卒業式がくだらんと思ふ奴は、卒業式をボイコットしたらいいいじゃないか。このように自分がやりたいことを誰に遠慮すること

なくやり、それをもって自分が卒業式に対し断固自己主張する。高校生活に於いて何一つ「やりたいことをやる」ことができなかった僕達が、高校生活の

## 溶化

溶けてゆきます

溶けてゆきます

私の肉体は

どろどろと形を失ってゆきます

ああ

この手からは、美しく澄んだ液体が

この目からは、青く光る涙が

流れて、流れて

さうして私はくづれます

強い強い風の中

破片は散々に消え

地面には細波が立ち始めました

草原の中から

細い絹糸のような手が

あたりが暗闇なのか

私が盲目になったのか

何も見えずに

そうして

手足の感覚さえも薄れ

あの濁つた雲を見ることも

中で一切の人間的なものを失った僕達が高校生活の最後の卒業式の場で人間の叫びをあげる中からしか僕達

副島正純

さわることもできません

ただ

ただれゆく皮膚だけが

変わりゆく近景を知らせませす。

## 自己回帰へ

よれよれに歪んだ月の下を

生臭い風が吹き渡り

魚の腐ったような臭いが

草の茎にねばねばとまつわりつく

その中で

僕はみつけた

ああ

しかし、そいつは

なにもかもすっかり変わっていた

はらわたはちぎれ

腕はよじれ

目玉はとび出し

ただ、どろどろの肉の下で

心臓だけが、時折、びくと動いた

わずかの間に

そいつはまったく変わり果てていた

あまりにも遠くへ去すぎた

そう思ったかのように

片一方の目玉が柳の揺れるのを追う

ふらりと風が倒れると

悲しいはおいが僕を打った

もう治らないかもしれない

傾いた墓の上のねこが

じつと僕を見る。

#### 浅野 健二郎

スキーは楽し。それはとても言い表わすことはできない。ウインタースポーツの花形としてもはやされているスキー・スケート。

スキーはスケートと同じ所を周回するのに比べて大自然をバックに変化にとみ、スピードなどは段違いである。スキー人口が急増している理由は、そうした所にあるのではないか、ではスキー場の光景をながめてみよう。雪が音もなくシンシンとふりつもり、あたりの静寂と寒さが共鳴して、体のシンをふるわせる。まじり気のない純白の雪は、俗世間からのかた時のやすらぎを与えてくれるのだ。のほりの苦しきは、すべる時

の快適さを倍増してくれる。だれもが、マナーを守りその楽しさを一度はあじわってほしいと思う。

#### 編集後記

さて、これでおしまいです。

「あーあ、つまらなかった」と思った人は、燃やしても、紙飛行機を作ってもかまいません。

なーんにも思わなかった人は、本箱の奥にでも、つんでおいて下さい。むしろ勝手に腹がたつた人はまるめて、ごみ箱の中に、ほりこんで下さい。

ちよっとでもいいなあと思った人は、そっと心の中にしまっておいて下さい。

それから、毎日がひまでたまらない人は、一度文集をお作りになつたらいかがでしょう。

今度は10号記念、スプリングに小さな革命をおこしたと思っています。



## 「表紙のことば」

人相図、手相図、家相図、方向図、地図、天気図、さらには告別式の失印、指名手配のはり紙、指紋、印鑑など、あまりにもわれわれの生活に密着しているこれらのものは、あまりにも完結した一つの世界をつくってしまい、もはや人々は、それらを「デザイン」として見ることはない。しかしぼくはそれらの中に、真のグラフィックデザインなるもの——絵とタイポグラフィとのみごとを調和、人の心を深くインヴェオルヴさせる、すばらしい情報伝達力、腐廃した現代デザインよりも、はるかにヴィヴィッドにうごめく土俗の精神を見る。そしてそれらのものを、あらためて「デザイン」として人々の目の前に突き出した時、そこに新たなデザインの復活が始まる。

この黒いデザインは、何も自治会のイメージを表象するものではないが、ただ言葉ではあらわせないぼくのテーマを、人々の前にさらし出したかったのである。

楠本幸男

### スプリング 第一〇号

昭和四十五年二月二十日 印刷

昭和四十五年二月二十四日 発行

非売品

編集者代表 伊藤俊彦

発行者 大手前高校自治会文化部

発行責任者 文化部顧問・桑原啓

印刷所 門真美術印刷株式会社

摂津市鳥飼下一三〇三の一

電話 茨木五四 四七二九

発行所

大阪府立大手前高校自治会  
大阪市東区大手前之町二